

Vol.30



極楽通信
UBUD



photo:Y. Hori

バリでスンバヤン（お祈り）した後のこの瞬間、つまり聖水をマンクにピッピッとかけてもらう瞬間がとても好きだ。

地球の平和と人類の愛を無邪気に祈願し、これに対してのご褒美をもらう子供のように、聖水をかけてもらうことが好きなのである。すごく清々しい気持ちになるし、飲んでも頭につけても御利益があるような気がしてしまう。さらにこの後に米粒をもらうのも好きだ。米粒を額やこめかみにくっつけて祈りを終わると、身も心も浄化されたナチュラル・ハイ状態となり、ふわふわと気持ち良くあちこちをさまようことができる。

今回で極楽通信も最後である。聖水と米粒を受け取ってさらなる極楽へさまよいたいものである。

堀 祐一

Contents

● Kabar Baru Berita Lama	
バリ・アガと呼ばれる人々	4
Rengue Studio Asli	5
● Barong	
バロンの秘密	6
● Wariga / バリの暦大解剖!	
カレンダーの見方	10
● Perawatan Anak 【11】	
正しい出産と育児 in Bali-11	14
● Pin-Pin-Boh / 10	
インドネシア語講座 / 10	17
● Tsure-Zure / バリ島つれづれ体験記 (4)	
ポトン・バビは深夜行なわれる豚の屠殺	18
● Bali Buku Catatan Harian / 7	
バリ日記 【7】	20
● Staff	
極楽通信スタッフ紹介	24
● TOKO BEST 店	
Tattoo	26
● Warung 味な店	
Bumbung Cafe	26
● Buku-Buku	
クタ・アルダナのバリ語会話	27
● Berita Terbaru	
その他のニュース	28
● Orang-orang Ubud / 30	
うぶんな人々 / 30	29
● O-Shi-Ra-Se	
おしらせ	30
● Pengumuman	
でんごんばん	30

○表紙のことば○

■極通スタッフ四人衆■

極通の表紙は、定型パターン無しという変わった形態で始まりました。決まりは「極楽通信 UBUD」と「Vol.##」を入れるってコトだけ。あとは、各方面でご活躍のアーティストをお願いして“おまかせ”というわけです。しかも、バリが好きという共通項に甘えて“タダ”。(笑)

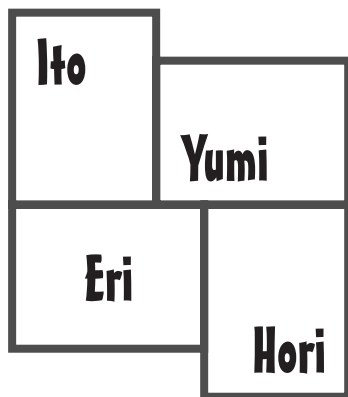
実は、お仕事として正式にお願い

したら大変な事になりそうな著名な方々ばかりでした。30冊、表紙をズラッと並べれば、ちょっとした展覧会ができちゃいます。

いやあ、ほんとに皆様、ありがとうございます。

…で、最後の表紙はどうしようかという事になりまして、それならこの極楽通信を作ってきた四人衆の写真でもカラージュするかという事になりました。こんな奴等が作っていたんですね。さらなる詳細は、24ページへGo! してください。

／ Eri



編集室便り

●入稿に関するお願い

編集部では、MacintoshによるDTP作業で版下を作成しています。原稿をお寄せくださる方でText Dataで入稿可能な方は、以下の方法をお願いします。

Macintosh format または Windows format の FD (Text Data)

E-Mail :

MHC03202: 菅原 (NiftyServe)

GCB01162: 堀 (NiftyServe)

hori@potomak.com (Internet)

eriko@potomak.com (Internet)

※詳細は、裏表紙にある日本連絡先事務所までお問い合わせください。

特派員報告 バリ・アガと呼ばれる人々

「バリ・アガ (Bali Aga / バリ人はバリ・アゴと発音します) って言葉、聞いたことありますか?」こんな質問をバリ・フリークに投げ掛けると「バリの《先住民族》のことでしょ。たとえば、グリーンシンと呼ばれる経緯緋織物や水草で編んだカゴで有名なトゥガナン村や風葬の村として有名なトルニャン村、そして、スンビラン村がバリ・アガの村ですよ」という答えが返ってくることでしょ。

そうです、確かにガイド・ブックにはそのように説明されています。しかし、実はこの答え、正しいようで正しくないのです。

《先住民族》という言葉は、バリ・アガの場合にはあてはまりません。なぜなら《先住民族》と言ってしまうと、北海道のアイヌ人、アメリカのインディアン、オーストラリアのアボリジニーのような少数民族のように思われてしまうからです。

バリにはもともと、現在のバリ人のおよそ93%にあたるスードラとよばれる人々が、称号も階層もない平等な社会のなかで、いくつかの親族集団を組んで暮らしていました。そこには領主や僧侶も存在し、政治と宗教とが組み合わさった社会が営まれていました。もっとも勢力をもっていたのは、バセツとブンデサと呼ばれる親族集団です。

マジャパイト王国がイスラム勢力によって圧倒されるにつれ、称号を持ったヒンドゥー教徒がジャワから逃れてバリに移り住みました。そして、バリはマジャパイト王国の末裔たちによっていくつかの領地に分割され、統治権を持つ諸王国に支配され、その影響を受けるようになったのです。

もっとも強い影響は、ジャワ・ヒンドゥー教によって与えられました。影響を受けた村落は伝統的な宗教にジャワ・ヒンドゥー教を融合した、バリ独自のヒンドゥー教の文化を作っていました。それが今のバリ・ヒンドゥー教です。

しかし、一部の村落—とくに山地—には諸王国の支配が行き届かず領地に組み込まれることがなかったので、ジャワ・ヒンドゥー教の影響もあまり受けませんでした。こうした村落ではジャワ・ヒンドゥー教化される以前のバリの伝統的なアダット (慣習) が強く守

られ、独自の社会が保持され続けていったのです。これらの村落がバリ・アガとよばれているのです。

J.Kersten S.V.D 著の『BAHASA BALI』によると、バリ・アガは「孤立した村落に暮らす、ジャワ・ヒンドゥー文化の影響が少なかったバリ人。風俗・習慣はより伝統的な性質を持っている」と説明されています。

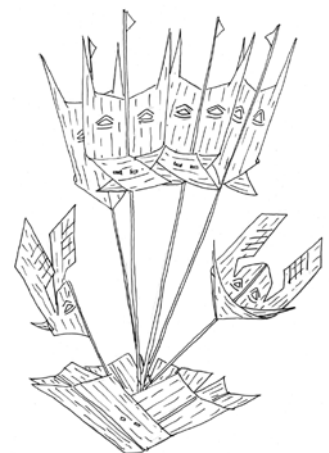
これらの説明でわかるように、バリ・アガと呼ばれる人々も実は一般のバリ人と同じ民族なのです。決して《少数民族》ではないのです。

それではなぜバリ・アガと呼ばれるようになったのでしょうか?

バリ・アガという言葉は、研究者達の間で一般のバリ・ヒンドゥー教のアダットを持つ人々と彼らを区別するために生まれた学術用語です。バリ・アガと同意語でバリ・ムラ = BALI MULA (バリ人はバリ・ムロと発音します) という言葉が使われます。

谷口五郎氏・編集の『インドネシア語—日本語辞典』によると、MULA はサンスクリット語で、はじめ、本源、故郷と訳されています。こんなところからバリ・アガを《先住民族》と訳す誤解が生まれたのではないのでしょうか。

アダットの違う村落は上記の三つ以外にもたくさん存在します。ひよっとすると、あなたがなにげなく訪れていた村も、アダットの違う村だったのかもしれないね。



Rengue Studio Asli

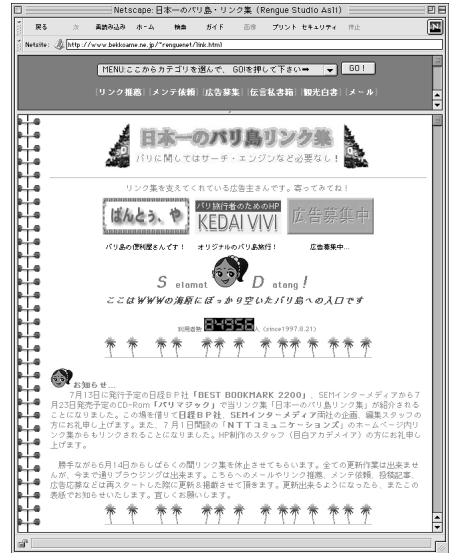
さて、本号をもって、これまでの形の極楽通信 UBUD は休刊するわけですが、情報の多さ&早さに関しては、いまやインターネットにはかないません。でも、あまりに広すぎるネットの世界で、バリの情報を求めつつも情報の波に吞まれておぼれてしまうかもしれません。そこでそういった情報網の要ともいえるとおきのハブ・サイトの道案内をしておきますね。

「Rengue Studio Asli (レンゲ・スタジオ・アスリ)」

<http://www.bekkoame.ne.jp/~renguenet/>

ここさえブックマークしておけばバリのことについてはバッチリです。ここは「極楽通信 UBUD/16号」の表紙を担当していただいた細田寛さんが運営されているホームページで、「日本一のバリ島リンク集」と銘打っているほどリンク情報が豊富です。

極通なき後のバリ情報は、ここから検索するとらくちんです。以下にリンク集のカテゴリーメニューを紹介しておきますね。



リンク集表紙

- └バリ島総合 (日本語のサイト)
 - └└バリ島総合 (海外のサイト)
 - └└バリ・インドネシア総合
- └気象情報 (バリの天気予報など)
- └旅情報 01 (旅の準備)
 - └└旅の準備
 - └└海外旅行保険
- └旅情報 02 (出発)
 - └└エア・ライン情報
 - └└出発する
 - └└現地の旅情報
- └旅情報 03 (チケット&ツアー)
 - └└格安チケットを探す
 - └└ツアーを探す
 - └└バリ島方面に強い旅行会社
- └泊まる 01
 - └└泊まる総合 (バリ島全域)
 - └└その他
- └バリ島ホテル 1(クタ・サヌール周辺)
 - └└バリ島ホテル 2(その他南部)
 - └└バリ島ホテル 3(南部以外)
- └食べる
 - └└バリ・インドネシアを食べる
 - └└日本国内で食べる
 - └└作る&食べる (レシピ・食材など)
- └買い物 01
 - └└バリで買う
 - └└デパートで買う
- └買い物 02 (オン・ラインで買う)
- └芸能 01 (伝統芸能 1/ ガムラン)
 - └└ガムラン
 - └└世界のガムラン・グループ
- └芸能 02 (伝統芸能 2)
 - └└トケチャ&舞踊
 - └└トワヤン
 - └└パティック・テキスタイルなど
 - └└その他芸能文化
- └芸能 03 (サブ・カルチャー)
 - └└大衆音楽
 - └└コミック・まんが
 - └└その他
- └ギャラリー 01 (バリの写真)
- └ギャラリー 02
 - └└絵画&版画
 - └└彫刻・その他
- └マスコミ 01
 - └└日本語で!
 - └└新聞・雑誌・ニュース
- └マスコミ 02
 - └└バリ以外の地方紙
 - └└テレビ・ラジオ・他
- └Money
 - └└レート・マネーチェンジ、ファンド
 - └└外貨送金、T/C、クレジットカード
- 等
 - └└各銀行
- └ことば
 - └└バリ語
 - └└インドネシア語など
- └バリの本
- └紀行文
 - └└バリの紀行文
 - └└インドネシアの紀行文
- └スポーツ・レジャー
 - └└マリリン・スポーツ
 - └└トサーフィン
 - └└ダイビング
 - └└クルージング
 - └└ラフティング
 - └└その他スポーツ・レジャー
- └ナイト・ライブ
- └イベント
- └インターネット・通信
 - └└電子掲示板
 - └└会議室・チャット・ML・その他
 - └└通信 (カフェ、プロバイダ、国際電話、郵便など)
- └ヒーリング・バリ (エステ& Spa など)
- └MORE Bali!
 - └└冠婚葬祭
 - └└バリの地図
 - └└バリのビーチ
 - └└たばこ
 - └└その他
 - └└バリ島のリンク集
- └MORE Indonesia!
 - └└その他
 - └└インドネシアのリンク集
 - └└その他アジア



バロンの秘密

by エナちゃん

バローン、バローン、バローン、バローン、バロン
バロンバロン、バロンバロンバロン、は〜るかな村が
あ〜、ふるーさとだー、と、ウルトラセブンのテーマ
のメロディで歌っていたのは、エナちゃんの知り合い
の渡部さんという素敵な男性でした。渡部さんお元氣
ですか。

バロンは皆さんもご存じの、バリの獅子です。実はバ
ロンと言ってもいくつか種類があり、ふつうツーリス
トが舞踊劇の中で目にするのは「バロン・ケケッ」と
よばれるもの。あのキラキラで豪華なやつですね。そ
の他に、虎の「バロン・マチャン」、豚の「バロン・パ
ンカル」、ライオンの「バロン・シंगा」などもあり、
よくガルンガンやクニンガンに子供たちが踊りながら
村を練り歩くのに使われます。これらはバロン・ケケッ
と違ってカラダのつくりも布を使った簡単なものが多
いようです。他にめずらしいものでは象の「バロン・
ガジャ」、大きな人間を型どった「バロン・ランドウン」
があります。

さあ、ここではバロン・ケケッの秘密を、いろんな角
度から暴いちゃおうと思います。

まず、「バロンってそもそもいったい何なのさ」という
ベーシックな疑問からいってみましょう。

むかし昔、時は紀元10世紀ごろ。バリではエルランガ
という王国が栄えていました。その頃、ムプ・バラダ
という伝道師が、チベット〜インド北部からタントリ
仏教パイラワ派の教えをバリにもたらし、それととも

に現在のバロンとランダの原型が伝えられたと言われ
ています。いまでもチベットには、バリのそれと酷似
した面が残っているそうです。また、同時にエルラン
ガ王国にまつわるチャロン・アラン（チャロナラン）
伝説が生まれ、（ある説ではこれは歴史的事実だとも言
われています）

バロンやランダの面とともに今日まで受け継がれてき
たのです。

バロンは空想上の聖獣とされていますが、伝説による
と、聖者ムプ・バラダの化身とも、森の王者「パナス
パティ・ラジャ」の姿とも言われています。

魔、けがれ、悪、死、暗闇を象徴するランダに対し、
バロンは聖、太陽、清、病を治すものの象徴であり、
ランダに対抗する魔力を持っていると信じられていま
す。まさに正義の味方、ウルトラ・バロンですね。

では次はバロンの構造に触れてみましょう。

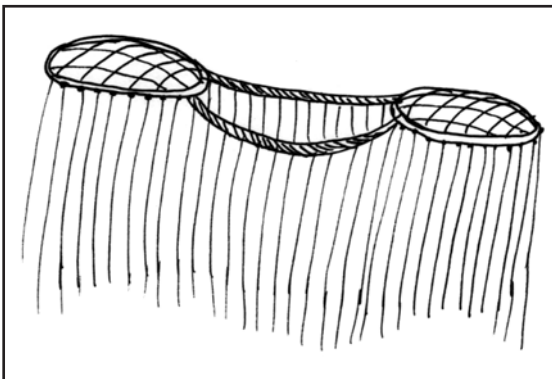
バロン・ケケッは、頭部にひとり、後部にひとり、
二人の踊り手が入るようになっています。（まれに、頭
部だけのバロンがありますがこれは「バロン・ブン
トゥッ」と呼ばれます。）

まず、直径60cm程の、大きなザルをひっくり返した
ような形のものが頭部と後部の中に取り付けてあり、
これをルンコ・ルンコと呼んでいます。それぞれのル
ンコ・ルンコには逆L字型になった、幅20cmほどのクッ
ションがついています。（このクッションについては後
で説明しましょう）

このふたつのルンコ・ルンコは、ジャコー椰子の繊維
からできたドックという太い二本のヒモでつながれて
います。そのドックとルンコ・ルンコの枠からは、1メー
トルくらいの長さの綿のヒモが、10cmほどの間隔で
垂れ下がっています。（図1）

その綿のヒモに、バロンの毛となるものがゆええられ
ているのです。バロンの体毛は一般に、プラソツとい
うヤシ科の植物の葉の繊維をつかいます。まず、その
葉を二ヶ月以上、水に浸して腐らせます。充分葉肉が
腐ったところで取り出し、何本分かまとめて端を持ち、
岩などに勢いよく打ちつけると、残った繊維がほぐれ、
きれいに洗うと白い毛のようになるわけです。

プラソツの木は最近、造園にも人気が高く、買うと一



【図1】

本何十万ルピアもするというので、深夜にシャベル持参の泥棒に持っていかれてしまった、という家もあったりします。ちなみにバロン・ダンスで有名なバトゥプラン村では、多くの家の軒先にこのプラソツが植えられ、大切に育てられています。

そして村にあるバロン（バトゥプラン村ではプラのご神体としてのバロンだけでも4体、他にツーリストのためのバロン・ダンス用に何体かを所有しています）の体毛が古くなって短くすり切れたりした場合に、村中の家々からプラソツの葉を集めて新しいバロンの毛をつくるのです。

ちょっとめずらしいものでは、バロンの体毛に、鳥の羽根を使ったものがあります。バトゥプラン村には、ココカン（白サギ）の羽根を使ったバロンと、カラスの羽根を使ったバロンがあり、どちらもススオナン（ご神体）として大切にされています。どういう方法で白サギやカラスの羽根を大量に手に入れたか、という残酷チックな話はさておき、特にココカンのバロンが踊る時、真っ白な羽根がそよそよとゆらいで、それはそれは美しく、まるで天国から来たバロンのよう。ココカンの羽根は正式にプトゥル村（ココカンが集まる有名な村ですね）から寄贈されたもので、今でもプトゥ

ル村の寺院でオダラン（祭礼）があると、時々バトゥプランからはるばるココカン・バロンが奉納の舞いを捧げに行くのだそうです。

さて次は面のまわりと頭部、背中から後部にかけての飾りを型どるのは、レゴンの冠と同じように水牛の皮に金をぬったもの。（写真参照）色とりどりの石や小さくカットした鏡が埋め込まれ、バロンが動くたびにキラキラとライトに反射してとてもきれい。クエールをふちどるのはロバのたてがみです。弧を描いてピンと跳ね上がったしっぽの先には馬のしっぽがついていて、さらに四角い鏡とチリンチリン鳴る鈴がひとつ、そして何本かのチャンドラワシ（極楽鳥）の羽根がぶら下がっています。チャンドラワシの羽根はわざわざイリヤン・ジャヤから取り寄せるのだそうです。

そして次は、バロンの足。バロンを操る踊り手は、上半身裸か、Tシャツやランニングなどを着ます。そしてシマシマ模様のズボンをはき、その上に膝から足首までを被うスティウォルをつけます。スティウォルはヤギの毛つきの皮でできています。さらに足首に、鶏の羽根をまとめたものと、ゴンシェン（鈴）をつけます。これは十数個の鈴が一本のヒモに取り付けてあるもので、それをぐるりと足首に巻き付けます。鈴は厚手の真鍮でできており、日本の普通の鈴よりも深みのある音がします。踊り手がステップを踏むとシャンシャンと可愛く鳴って、目を閉じていると、とてもあんな迫力のバロンが踊っているようには思えないくらいです。



Garuda Ungkur ガルダ・ウングクル



Kuer
クエール

Tapel
ダブル

Sekar Taji
スカー・タジ

Bandong
バンドン

さあ次はダブル（面）。特にスオナンのパロンのダブルは、神聖な木とされているカユ・ポレーからつくられます。彫るのはベテランの専門職人。昔から、パロンの彫り師はシンガパドゥ村に多いと言われています。木を切り出すところから、完成してスオナンとして入魂されるまで、何度も厳粛な儀式が繰り返されます。まん丸く見開かれた大きな目、むきだした歯とちいさな牙。一見おどろおどろしい面もちですが、実際に踊っているのを見ると、意外にひょうきんな表情だったりします。

ダブルについての顎髭は人間の髪の毛を使っています。この顎髭が、パロンの体のなかでいちばん神聖な部分だと言われています。

パロンを操る踊り手は「バパン」と呼ばれ、他の普通の踊り手とはまた違った技量が求められます。パロンの総重量は軽いもので50kg、重いものだと80kg以上もあると言われ、それを頭でささえて操るバパンは、全身が鍛え

ぬかれた者でなくてはなりません。踊り慣れたベテランでさえ、頭部と後部のバパンの息が合っていないと、首の骨を折りがねないのだそうです。命がけですね。

ではバパンはいったいどのようにしてパロンを操るのでしょうか。

まず、前述したルンコ・ルンコに取り付けられた、逆L字型のクッションに頭があたるよう、中に入ります。ダブルのまわりの隙間からは、ほんの少ししか外が見えません。パロンの体を頭で支えながら、両手を使ってダブルを操ります。ではここでダブルの裏側を見てみましょう。パロンのダブルは、顔の上部と下顎で別れ、両顎に通した棒でひとつにつながっています。その棒の上部に、鈴がいくつか取り付けられていることもあります。上顎の両サイドには小さな穴が開いているか、もしくはフック状の切り込みがあります。そこに親指をひっかけます。そして下顎の両サイドには長さ10cmほどの、握り棒が突き出ています。残りの四

本の指で、それを握るわけです。では親指を下方に下げたみましょう。すると、パロンの口（上顎）が、あぐり、というかんじで開きます。今度は片方の手（通常左手）はそのままだに軽く固定し、もう一方の手（通常右手）は親指を上顎から離して、握り棒だけをギュッと握って上下に動かしてみます。今度は下顎が動きます。そうですね、ちょうど釣竿を握って、先端を上下させるような感じです。いったん下げた顎を、勢いよく上に打ちつけるように動かすと、パロンがカタカタと歯を鳴らします。

ダブルは、本体の上部から二本のヒモで吊り下げただけなので、顔の向きも左右、ある程度は動かすことができます。パロンの視線は、体の動きに合わせて、観衆を見つめてみたり、あたりをキョロキョロ見回してみたりと、常に注意を払い、本当に生きているかのような表情をつくりださなければなりません。口を操作していない時でも、ただアングリ開けていてはダメで、上下の前歯の間が常にだいたい「指三本」分くらいの幅で開いているのが理想なんだそうです。

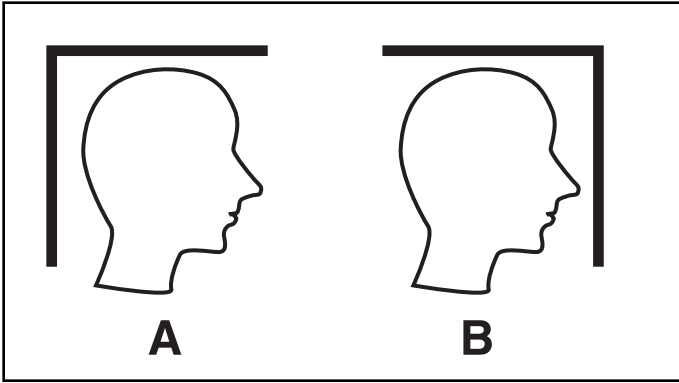
また、パロン・ダンスを見ると、ダブルの位置がバパンの顔のあたりになったり、移動して腰のあたりになったりします。これはどうやって動かしているのでしょうか。まず、上部のクッションが、バパンの頭にAのポジションに乗っていると、ダブルはバパンの顔のあたりにあります。また、少しずつクッションを前方にずらして行って、バパンの頭にBのポジションに乗っていると、ダブルはバパン



●ルンコ・ルンコに取り付けられた頭をあてるクッション



●パロンの中からの見た目



の腰のあたりに来るわけですが。この状態だと、クッションが顔の前を被ってしまうので、バパンは下のほんの少しの地面しか見ることができません。そんな盲目状態でも、バパンは、タプルの操作を気を緩めることなく続けていなければならないのです。よく、寺院の割れ門から、何段もある石段を踊りながら降りてくるのを見ますが、観衆には思いもよらないところで、バパンは全神経を集中させてバロンを操っているのです。

仮に、あるバパンが、他の村の寺院のオダランでバロンを踊る事になったとします。バパンはあらかじめ、舞台となる場所をよく下見しておき、障害になるものがないかどうか、広さはどのくらいか、確認しておかなければなりません。そろそろガムラン演奏者達が準備を始める頃、バパンは二人揃って、寺院の境内の中で、無事につつがなくバロンを踊れるようにムスポ（お祈り）をします。バパンは時には聖なるスオナンを操る、とても大切な役割を担うのです。まれなことですが、ブラック・マジシャンが観衆の中にまぎれ、目に見えない力でスオナンであるバロンにいたずらを仕掛けることもあるそうです。それはただ単に、ブラック・マジシャンの力だめしであることが多いそうですが、バパンはそんな悪の力に負けることがないよう、身も心も清らかな状態で臨むのです。

ここでひとつ、バロンの不思議な話をしましょう。スオナンとして大切に寺院に安置してあるバロンが、カジャン・クリオン（15日ごとに巡ってくる、悪霊が徘徊するといわれる日）の夜更けに、ひっそりと外に出されることがあります。これは、プマンク（寺院の司祭）が突然クラウハン（神がかり）状態になり、バロンに村を歩かせるよう命令するのだそうです。それも、村人達が寝静まった深夜にです。そんな時には、プマンクと何人かのおつきの者が普通の正装のまま、交代でバロンに入って村を歩くのですが、なんと、バロン本体が、まるで意志を持ったかのように中に入った者を誘導してしまうこともあるのだそうです。時には立ち止まったまま動こうとせず、時には猛烈ないき

おいで、人間の足が追いつかないくらいの速さで。

また、バリでは、雨季の終わり頃になると、気温と湿度のバランスが崩れやすく、身体をこわす人が続出し、昔はよく疫病が流行ったそうです。今でもその季節になると、スオナンのバロンがプラから出されて村中を練り歩き、お祓いをします。バレ・ガンジュールのにぎやかな楽隊とともに、村人総出の行列を従え、村の辻々を廻り、時には一斉に座り込んでプマンクとともにお祈りをします。

これを「ニャンプレー」と言います。雨季の終わり頃のカジャン・クリオンの日、夕暮れから夜にかけて、道で原因不明の大渋滞に巻き込まれ、あたりに正装姿の村人達が大量に出ていたら、それはたぶんニャンプレーでしょう。その渋滞の先にはバロンがのそり、のそりと歩いているはずですが。そんな時に車かバイクに乗っていたら、すばやく他の道に変えるか、路肩に止まってニャンプレーの行列が通り過ぎるのをのんびり待たなければなりません。バリの人々にとってニャンプレーは、村人達が健康かつ平穩に暮らしていくための、大切な儀式のひとつなのです。

そしてバロンも、バリにはなくてはならない大切な存在であり、正義の味方として人々を守る、まさに「ウルトラ・バロン」なのです。

誰ですか？バロンを見て、「きゃあ〜、カワイイー、ネバー・エンディング・ストーリーのようにあの背中に乗って、空を飛んでみたいわー」なんてバチが当たりそうなことを言っているのは？

（実は、それは私です。）

…というわけで、極通とりあえぬ最終回はバロンの秘密でせまってみました。

読者の皆さん、バリの文化や芸能について、「こんなことがもっと知りたい」というようなご要望がありましたら、バリ本部までどしどしおたよりください。いつか極楽通信別冊編の企画の参考にさせていただきます。お待ちしておりますーす！！



1999
Tahun
1922
Jawa
120

VI JUNI 1998

WUKU
K

CAKA : 1921
WUKU ADI
Pangrayat
KUNINGAN

OWEL : BOUW
OWEE : 2550
KELIND

ROKU
BUDDHA

WUKU
MINGGU KE 23
19 WUKU ADI
Sabtu-wah. Cari wajan
Lanting

WUKU
MINGGU KE 24
19 WUKU ADI
Sabtu-wah. Cari wajan
Lanting

WUKU
MINGGU KE 25
19 WUKU ADI
Sabtu-wah. Cari wajan
Lanting

WUKU
MINGGU KE 26
19 WUKU ADI
Sabtu-wah. Cari wajan
Lanting

WUKU
MINGGU KE 27
19 WUKU ADI
Sabtu-wah. Cari wajan
Lanting

WUKU
MINGGU KE 28
19 WUKU ADI
Sabtu-wah. Cari wajan
Lanting

WUKU
MINGGU KE 29
19 WUKU ADI
Sabtu-wah. Cari wajan
Lanting

MINGGU
Redite
Sunday
Nichiyo
Sing Chi

6
Wage
Mangka
Jawa
Kala

13
Wage
Mangka
Jawa
Kala

20
Wage
Mangka
Jawa
Kala

27
Wage
Mangka
Jawa
Kala

34
Wage
Mangka
Jawa
Kala

41
Wage
Mangka
Jawa
Kala

SENIN
Coma
Monday
Getsuyōbi
Sing Chi Ik

7
Wage
Mangka
Jawa
Kala

14
Wage
Mangka
Jawa
Kala

21
Wage
Mangka
Jawa
Kala

28
Wage
Mangka
Jawa
Kala

35
Wage
Mangka
Jawa
Kala

42
Wage
Mangka
Jawa
Kala

SELASA
Anggara
Tuesday
Kayōbi
Sing Chi Ei

1
Wage
Mangka
Jawa
Kala

8
Wage
Mangka
Jawa
Kala

15
Wage
Mangka
Jawa
Kala

22
Wage
Mangka
Jawa
Kala

29
Wage
Mangka
Jawa
Kala

36
Wage
Mangka
Jawa
Kala

RABU
Buda
Wednesday
Suivōbi
Sing Chi San

2
Wage
Mangka
Jawa
Kala

9
Wage
Mangka
Jawa
Kala

16
Wage
Mangka
Jawa
Kala

23
Wage
Mangka
Jawa
Kala

30
Wage
Mangka
Jawa
Kala

37
Wage
Mangka
Jawa
Kala

KAMIS
Wraspati
Thursday
Mokuyōbi
Sing Chi She

3
Wage
Mangka
Jawa
Kala

10
Wage
Mangka
Jawa
Kala

17
Wage
Mangka
Jawa
Kala

24
Wage
Mangka
Jawa
Kala

31
Wage
Mangka
Jawa
Kala

38
Wage
Mangka
Jawa
Kala

JUMAT
Sukra
Friday
Kin'yōbi
Sing Chi U

4
Wage
Mangka
Jawa
Kala

11
Wage
Mangka
Jawa
Kala

18
Wage
Mangka
Jawa
Kala

25
Wage
Mangka
Jawa
Kala

32
Wage
Mangka
Jawa
Kala

39
Wage
Mangka
Jawa
Kala

SABTU
Saniscara
Saturday
Doyōbi
Sing Chi Lioek

5
Wage
Mangka
Jawa
Kala

12
Wage
Mangka
Jawa
Kala

19
Wage
Mangka
Jawa
Kala

26
Wage
Mangka
Jawa
Kala

33
Wage
Mangka
Jawa
Kala

40
Wage
Mangka
Jawa
Kala

INGKEL (19) MANUK TARU BUKU WONG SATO

K A L E N D E R L E N G K A P											
<p>19. BERANAK / HARI RAYA SINDU</p> <p>1. Supper Jawa menghormati penerapan... 2. Supper Jawa menghormati penerapan... 3. Supper Jawa menghormati penerapan... 4. Supper Jawa menghormati penerapan... 5. Supper Jawa menghormati penerapan... 6. Supper Jawa menghormati penerapan... 7. Supper Jawa menghormati penerapan... 8. Supper Jawa menghormati penerapan... 9. Supper Jawa menghormati penerapan... 10. Supper Jawa menghormati penerapan... 11. Supper Jawa menghormati penerapan... 12. Supper Jawa menghormati penerapan...</p>											
<p>20. GALIAN DI PURA PUKUMERIAN SRI</p> <p>1. Galian di Pura Pukumerian Sri... 2. Galian di Pura Pukumerian Sri... 3. Galian di Pura Pukumerian Sri... 4. Galian di Pura Pukumerian Sri... 5. Galian di Pura Pukumerian Sri... 6. Galian di Pura Pukumerian Sri... 7. Galian di Pura Pukumerian Sri... 8. Galian di Pura Pukumerian Sri... 9. Galian di Pura Pukumerian Sri... 10. Galian di Pura Pukumerian Sri... 11. Galian di Pura Pukumerian Sri... 12. Galian di Pura Pukumerian Sri...</p>											
<p>21. GALIAN DI PURA PUKUMERIAN SRI</p> <p>1. Galian di Pura Pukumerian Sri... 2. Galian di Pura Pukumerian Sri... 3. Galian di Pura Pukumerian Sri... 4. Galian di Pura Pukumerian Sri... 5. Galian di Pura Pukumerian Sri... 6. Galian di Pura Pukumerian Sri... 7. Galian di Pura Pukumerian Sri... 8. Galian di Pura Pukumerian Sri... 9. Galian di Pura Pukumerian Sri... 10. Galian di Pura Pukumerian Sri... 11. Galian di Pura Pukumerian Sri... 12. Galian di Pura Pukumerian Sri...</p>											
<p>22. GALIAN DI PURA PUKUMERIAN SRI</p> <p>1. Galian di Pura Pukumerian Sri... 2. Galian di Pura Pukumerian Sri... 3. Galian di Pura Pukumerian Sri... 4. Galian di Pura Pukumerian Sri... 5. Galian di Pura Pukumerian Sri... 6. Galian di Pura Pukumerian Sri... 7. Galian di Pura Pukumerian Sri... 8. Galian di Pura Pukumerian Sri... 9. Galian di Pura Pukumerian Sri... 10. Galian di Pura Pukumerian Sri... 11. Galian di Pura Pukumerian Sri... 12. Galian di Pura Pukumerian Sri...</p>											
<p>23. GALIAN DI PURA PUKUMERIAN SRI</p> <p>1. Galian di Pura Pukumerian Sri... 2. Galian di Pura Pukumerian Sri... 3. Galian di Pura Pukumerian Sri... 4. Galian di Pura Pukumerian Sri... 5. Galian di Pura Pukumerian Sri... 6. Galian di Pura Pukumerian Sri... 7. Galian di Pura Pukumerian Sri... 8. Galian di Pura Pukumerian Sri... 9. Galian di Pura Pukumerian Sri... 10. Galian di Pura Pukumerian Sri... 11. Galian di Pura Pukumerian Sri... 12. Galian di Pura Pukumerian Sri...</p>											
<p>24. GALIAN DI PURA PUKUMERIAN SRI</p> <p>1. Galian di Pura Pukumerian Sri... 2. Galian di Pura Pukumerian Sri... 3. Galian di Pura Pukumerian Sri... 4. Galian di Pura Pukumerian Sri... 5. Galian di Pura Pukumerian Sri... 6. Galian di Pura Pukumerian Sri... 7. Galian di Pura Pukumerian Sri... 8. Galian di Pura Pukumerian Sri... 9. Galian di Pura Pukumerian Sri... 10. Galian di Pura Pukumerian Sri... 11. Galian di Pura Pukumerian Sri... 12. Galian di Pura Pukumerian Sri...</p>											

T.U. WARTA HINDUJHA

Jalan Nangka 23 Denpasar Bali Telp. 222156



バリの暦（カレンダー）大解剖！

カレンダーの見方

いよいよ最終号は、実際にバリ・カレンダーの見方を解説することにしませう。Vol.26 から続けてきたこのシリーズの、まさに総集編ともいえる力作です！復習がてら、前の号も参照して下さい。では今年、1999年の6月のカレンダーを例にとってみませう。

- 1: イスラム暦の月、年、そしてジャワ暦の年が書かれています。イスラム暦は、予言者ムハンマドのメッカからメディナへのヒジュラ（移住）があった年を紀元元年とするので、ヒジュラ暦とも言います。Arab:1420はこれを表します。西暦の622年7月16日がヒジュラ暦紀元元年1月1日に当たり、1420年は今年の4/17から始まりました。ヒジュラ暦は太陰暦で、6/14までが第2月のShafar、6/15から第3月のRabiulawwalになるわけです。
- 2: インドネシア語で西暦の月が表記されています。
- 3: TRI WULAN = 四半期（3ヶ月ごと）を表します。KE: IIは第二四半期のことです。
- 4: サカ暦。伝説によると、インドから渡来した、アジ・ソコ（サンスクリット読みでアーディ・シャカ）とその一族が、ジャワに建国した年（西暦78年）を紀元元年としたと言われています。
- 5: 中国暦。うさぎ年なので兎のイラストがついています。
- 6: なんと「ROKUGATSU」。その下に見えるのはまたまたなんと、日本の皇紀ではありませんか！
- 7: BUDDHA 2543 = 仏教暦。
- 8: できましたウク暦。ウクは7日をもって巡ります。6月の最後の週は、今年の第一週から数えて23週目、ウクの始まり / （今年の3月28日）SINTAの週から数えて、第10週目のSUNGSANGであることを表しています。その下には、パウコン（ウクの吉凶などが書かれた、ロンタル=古文書の種類）から引用した、この週が持つ性格、司る守護神などが書かれています。
- 9: たとえば日曜日。上から順に、インドネシア語、ウクの七曜週、英語、日本語読み、中国語読みで書かれています。
- 10: 西洋占星の表記。星座ですね。5/22～6/21は蟹座であることがわかります。
- 11: これが、このバリ・カレンダーの発明人、(故)クトゥットゥ・バンバン・グデ・ラウイさんです。現在は彼のご子息達によって、毎年発行されています。極通スタッフも、この事務所に何度か電話を入れて、カレンダーの「ナゾ」の究明に協力してもらいました。
- 12: 拡大図参照。
- 13: 日付のまわりを赤い円で囲ってあるのは、バリ・ヒンドゥーの重要な祝日を意味します。円が太い線の時は特に重要な日、細い線はそれに準ずる日です。ちなみにこの日は、ガルンガンです。
- 14: 日付の上に、小さな黒い丸がついていたら、その日はティラム（新月）です。



- 15: ここではモノクロでわかりませんが、この日は日付自体が赤色になっています。これはインドネシアの国の祝日（ナショナル・ホリデー）を表します。ちなみにこの日は、イスラム教の祝日。
- 16: 日付の上に、小さな赤い丸がついていたら、その日はプルナマ（満月）です。
- 17: イスラム、カトリック、中国仏教、バリ・ヒンドゥーの、それぞれの宗教の祝日（宗教上の重要な日）が載っています。
- 18: インドネシア共和国、もしくは世界共通の、いろいろな記念日が書かれています。ちなみに6/1は、インドネシアのパンチャ・シラ（建国五原則）の記念日、そして「世界子供の日」です。
- 19: INGKEL（インコル）は、バリならではの「禁則週」のことです。MANUK（鶏を含む鳥類）、TARU（太い幹のある木）、BUKU（節のある植物 -- 竹、さとうきびなど）、WONG（人間）、SATO（四本足の動物）、MINA（魚類）と6種類あります。それぞれの週には、それに関わる活動を控えなければなりません。たとえばMANUKの週は、鶏や鳥類を殺したり、買ったりする事を控えます。WONGの週は、結婚式や火葬式などの通過儀礼を控えます。しかし、実際の日常生活の上では、それほど厳密に守られていないようです。
- 20: TGLRERAINAN / HARI RAYA HINDU = バリ・ヒンドゥーの、今月の祭日、祝日が、くわしく書かれています。
- 21: TGL.ODALAN DI PURA PURA = 今月中に行われる、主なヒンドゥー寺院のオダラン（祭礼）の始まりの日です。
- 22: 毎月、新月の翌日から新しく始まる Sasih（サシー）が書かれています。6/15からは「Sasih Sadha」（第12月）です。そして、続いて書かれているのが、このサシーの性質を、NAGA（龍）の方向と位置になぞらえて示しているものと思われます。何故「龍」なのか、それがどんな意味を持って何を示しているのか、残念ながら今回は不明確のまま、究明できませんでした。これを知っている方がいたら、どうか教えて下さい。
- 23: TGLALA AYUNING DEWASA = この月の毎日の吉凶が、いくつかのポイントの略称とともに書かれています。この欄は、その日に生まれた人の性格・性質を表す面と、その日の行いについての示唆の面と、二通りの読み方があるようです。たとえば、ある日は、「この日に生まれた者は、さして苦勞せずして幸運をつかむ。頭もよいが、やきもちやきで、何かにつけすぐ威張りたがるのがいけない。」また、「この日は、重い物を肩にかつぐと不幸を招く。」とか、「いさかいを招きやすい日。大事な会合はダメ。」など、役にたちそうなアドバイスが、簡略に書かれています。
- 24: DEWASA AYU ANTARA LAIN SBB = 各方面の活動、仕事など、始めるのに良い日、行うのに良い日が書かれています。主に、農作物（特に米作）に関する記載が多いようです。たとえば田植えに良い日、たんぼの水路を開けるのに良い日、収穫した稲を倉庫に入れるのに良い日、など、事細かに載っています。ユニークなものでは、牛の鼻に輪を通すのに良い日、なんてものもあります。他には、子豚を飼い始めるのに良い日、家の基礎を作るのに良い日、踊りを習い始めるのに良い日などなど。最後に、各儀礼に適した日（寺院の儀礼、人間の通過儀礼、火葬式など）がっています。

■ 12 / 拡大図の解説

- A: イスラム暦の月の名称と日付（前述1参照）。ちなみに、来る12月9日から始まる第9月が、有名なRamadhan（ラマダーン）月、断食の月です。そして第10月（Shawal）の初日に、イドゥル・フィトゥリ（断食明け祭）が、イスラム教徒の間で盛大に行われます。
- B: 中国暦の月と日付。これも太陰暦を元にする暦です。今年の旧正月は、去る2/16でした。バリ在住の華僑の人々も、この日にはご馳走をつくって盛大に祝うそうです。
- C: トゥリ・ワラ（三曜週）
- D: サドゥ・ワラ（六曜週）
- E: ダサ・ワラ（十曜週）



■ 12 / 拡大図

(A)	Shafar	16	
(B)	Sie Gwee	18	
(C)	Kajeng		Paksi (G)
(D)	Maulu		Paing (H)
			Laba (I)
			2 (J)
(E)	Suka		Menga (K)
(F)	Indra		Dadi (L)
	Watek : Watu - Lintah Lintang : Yuyu 11. Mintuna Rasi		(M)
	Nampih Jiyestha		(N)

F : アスタ・ワラ (八曜週)

G : いわば、日毎に替わる INGKEL です。これも 6 種類あり、Paksi (鳥類)、Mina (魚類)、Taru (木々)、Sato (四本足の動物)、Patra (節のある植物)、Wong (人間) となっています。たとえば Patra の日には、竹やさとうきびを切ることを控えなければなりません。

H : バンチャ・ワラ (五曜週)

I : チャートル・ワラ (四曜週)

J : 満月の翌日から、月が欠けていく期間 (Panglong) を、黒い数字で数えます。また、新月の翌日から、月が満ちていく期間 (Tanggal) を、赤い数字で数えます。

K : ドゥイ・ワラ (二曜週)

L : サンガ・ワラ (九曜週)

M : これもパソコンから引用したと思われる、その日の持つ性質、運命などが書かれています。これも、その日の活動の示唆としたり、またこの日に生まれた人の性格占いなどに役立ちます。

N : Sasih (サシー) 名。

カレンダーの「ナヅ」究明にあたって、各方面に調査したのですが、いささか不十分なところもあることをお許し下さい。何と言っても、記載されている言葉が、インドネシア語・バリ語・古代ジャワ語・サンスクリット語と多岐にわたっており、それをいったんインドネシア語に置き換え、また日本語に訳するのが至難のワザでした。そして、これを読んで「あっ、これは間違ってる！」というご指摘がありましたら、どうか編集部・バリ本部まで、ご一報下さるとありがたいです。また、ここで引用したカレンダーは、その元祖ともいえる「T.U.WARTA HINDU DHARMA」社のものです。現在、ほかの数社からも同じ様な書式のカレンダーが発行されていますが、記載事項が少し違っていたりします。ご了承下さい。

この「バリの暦」については、知れば知るほど奥が深く、とても興味深いので、これからも極通編集部のライフ・ワークとしてさらに探求してみようと思っています。その成果を、いつかまた皆さんに伝授できるといいな、と思います。乞うご期待！！

この「バリ・カレンダー解剖」にあたって、以下の皆さんに協力をいただきました。

Terima kasih banyak atas bantuannya ;
岐阜教育大学・服部美奈さん、Bapak Putu Gede Arnawa、T.U.WARTA HINDU DAHRMA の皆さん

正しい出産と育児



by ムーン・ストーンの花嫁

NOMOR 11

■育児は続く、いつまでも

そんなこんなで最終回を迎え、今やニッも二歳半。しんどかった育児もようやくゴールの兆しが見えてきたように思う。ごはんはある程度大人と同じものが食べられるようになったし、おしっこやうんちはちゃんと言えるうえに、便器にしゃがんでリキむこともできるようになった。クンダンを叩くマネも、パロンを踊るマネも上手になったし、プラヤサンガ（家寺）でちょこんとあぐらをかき、ひとりで花びらをつまんでお祈りしたあと、なんとちゃんと聖水をうけて飲めるようになった。必要最小限のコトバも、（もっぱらバリ語だが）理解し、カタコトながらも少しずつ話せるようになってきた。とはいえ、大人のコトバを理解できてもそれをちゃんと聞き入れるかどうかはこれまた別の話である。このへんの、子供に対するしつけとコミュニケーションに関するあたりが、ある意味では育児のハイライトであり、最大の難関なのではなからうか。今までは、やれ離乳食だの栄養だの衛生についてだのと、子供の身体の成長に関しての悪戦苦闘が中心だったが、今度は心の成長を育てていかねばならないのだ。ここからは育児書のマニュアル通りというわけにはい

かない。一歳くらいまでは、しちゃいけないことをして怒られると、おとなしく引き下がっていたが、二歳を過ぎると逆に反抗し、何がなんでも自分の思う通りにしないと気が済まなくなった。そこでさらに叱りつけると今度は逆上し、顔を真っ赤にして辺りのモノにあたりちらす。こうなったら慈悲深き母といえどももうお手上げである。母の虫の居所が悪いと、子供と同じように逆上し、果てはおしりなどをパンパン叩くのであるが、すると決まって耳をつんざく声量で大泣きである。アメリカにはこの時期の子供の扱いにくさを、「Bad Two（悪の二歳児、とでも訳そうか）」と表すコトバがあるそうだ。本当にしちゃいけないこととそうでないこと、なぜしちゃいけないか、そんなことも小さな脳みそでは理解できず、大人にとっては非常にやっかいな存在となるのである。しかしこういったことは個人差もあるし、世界共通のことなので、特に今さら取り上げることもない。ではそんな「Bad Two」の子供達に対し、バリでは大人がいったいどのように対処するか。

おおむねバリ人は、小さな子供達に対して非常に甘い。もうあまあまである。そんなに甘やかされて育てば、ロクな人間にならないぞ、とひとごとながら心配になるほどである。でも不思議なことに、バリ人は思春期になってもめったにグレて社会にメークをかけることもないし、性格および精神異常者になって殺人を犯すわけでもないし、マザコンおよびファザコンになって結婚生活に支障をきたすわけでもない。日本人はあんなにきびしく、小さな頃から躱されてきたのに、この現状はいったいどうしたことか。逆に、日本であまあまに甘やかされて育ってきた子供が、グレて人にメークをかけたり、殺人犯になったりしてしまうのは何故なのか。親の育児だけでなく、これは子供を取りまく社会にも関係がありそうだ。

Napas <呼吸・息>



Illust:Fumio

なによりバリでは、すべての大人が、社会全体が、子供に対して優しい。

たとえば愛情表現。バリ人は子供にとってもダイレクトな愛情表現をする。しっかり抱きしめ、キスの雨、嵐である。それもしょっちゅうしている。子供の頬が乾く暇もないほどだ。いくら親が子供に深い愛情を持っている、それを子供に体で示してやらなかったら意味がない。ある程度大きくなってからだったらたとえ無言でいても、日常生活のなかで親の愛情を感じることができようが、小さなうちは無理である。目で、耳で、肌で、そして心すべてを開いて親の愛情を求めている。親も、できればまわりの人間も、そんな痛々しいまでの子供の求めに充分応えてやらねばなるまい。多くの日本の親たちは、そして日本の社会は、それが不十分なのではないか。理屈抜きの純粋な愛のパワーが、躰とか教育といったものの影に隠れてしまっているのではないか。(もちろん躰も大切なのだが。)

それに、愛を求めている子供に対し、モノばかりを与えてはいないか。

バリ人は他人の子に対しても、愛を与えることを惜しまない。全身イレイズミだらけの長髪のアんちゃんが、近所の子だと言う小さな赤ちゃんを、顔をデレデレにしてあやしているのを見たことがある。そんなおっかなそうなあんちゃんの全身からは、ありあふれる愛のパワーがほとぼり出ている。私は思わず涙ぐんでしまった。自分が小さな頃、そんなパワフルな愛を惜しげもなく与えてくれた人が、私のまわりにいったい何人いたろう？

そしてたとえば公の乗り物の中。バリではベモくらいしかないが、その中で小さな子供が泣いてぐずっていたとしよう。そこに乗り合わせた人々は、見知らぬ子供であっても、あやしたり、ベロベロ・バーをしたりして泣き止ませてくれるのだ。泣き止んだあとも、なにかと相手をしてかまってくれる。これは母親にとってはもう神様仏様、彼らの足許にひれ伏してお礼を言いたいくらいありがたいのである。シカトを決め込んで無視する人ももちろんいるが、特にイヤな顔をするでもなく、うるさかろう泣き声をひたすらムシしてくれるのであれば、それもまた思いやりである。

昨年、ニツをつれて日本に旅行したときのこと。もちろん生まれて初めて乗る飛行機のなかで、予想どおり、ニツは泣いた。行きの便は運良くガラ空きで、夜だったこともあってなんとかなだめて寝かしつけたが、帰りの日本から乗り継ぎのガムまでがいけなかった。ガム目指して乗り込んだ満席の日本人の中で、ニツは泣きわめいた。大人だってあの離陸の時の不安と緊張感は避けて通れないものだ。まず、前の座席の、いい年して茶髪のカップルが、チラチラふりむいては号泣しているニツをにらみつけるのである。泣いている

二歳に満たない子供をにらみつけて、いったいどうなるというのか。私と夫はなんとか泣き止ませようとあの手この手を使い、最後の手段でニツのお気に入りの自動車ポッポのおもちゃを取り出した。ボタンを押すとメロディが流れ、「つぎは、トーキョー、トーキョー」とか声が出る、小さなおもちゃである。それを見てニツはやっと泣き止みかけた。

ホッ、としたところで例の茶髪の男がキッ、とふりむき、「それ、やめてもらえませんか」と、冷たく言い放ったのである。「えっ？」私と夫は顔を見合わせ、思わず絶句してしまった。何もガムに着くまで鳴らせっぱなしにしておくわけではない。迷惑であろう子供の泣き声を、少しでも止ませようと取り出した他愛もないおもちゃの音である。しばらくボーゼンとしていた私と夫はだんだん腹が立ってきた。「ばっきゃろー！そんなにうるさいのがいやだったらエコノミーじゃなくてファースト・クラスに行けよー!!」「そうよ、なにさエラそうに、まるで王様きどりじゃんか、インドネシア人だからってなめんじゃねーわよ」「子供を扱ったことがないのかよ、このボケ」と、さんざん

バリゾーゴンをインドネシア語で茶髪の頭に投げつけたあと、夫は前の座席を一度だけ、「ガン！」

と蹴りつけた。私も真似してバコバコ蹴ってやりたかった。これが私の祖国の人間なのか。

バリでは子供はかけがえのない宝物である。それが他人の子供であろうと、だ。子供というのは、バリに生まれ育った自分の血を受け継ぎ、永遠にこの島を愛し、守っていくであろう大切な子孫であり、一人の人間としてこの地球に生まれた、かけがえのない小さなのちなのである。



誰に教わるでもなく、バリ人は皆そう考えているので、社会全体が子供に対しておおらかで優しいのだ。日本の今の社会は、思うに、あまりにも大人中心なのではないか。大人の邪魔にならないように、大人に迷惑をかけないように、大人の時間をつぶさないように、子供は小さく小さく、黙って縮こまっていることを強いられているのではないか。一部の（ほんの一部であることを願う）日本人は、この世から子供が一人残らず消えてしまっても、別段悲しいとは考えないのではないか。自分たちが、人間として子孫を愛でる本能を放棄してしまっていることに、気がついていないのだろうか。

そうだとしたらなんと悲しいことか。そういう私も、実際に自分の子供を持つまで、こんな事は考えたこともなかった。子供なんていうものは、自分とは一切関係のない存在であり、小さく黙って縮こまっているべきものだと考えていた。

ついつい自分の育った環境のとうりにニッをきつく叱りつけて折檻してしまう私を、夫や家族はやさしくたしなめてくれる。「かわいそうだろ、そんなにしちゃ。小さな魂に傷をつけてしまうよ。」

本当にしてはいけないこと、危ないことをしたら、柔らかく言い含めながら上手に子供の気をそらせてしまう。そのあたりの心の広さときたら、もう、私はひたすら敬服である。ある時、夫に尋ねたことがある。「どうしてそんなにおおらかでいられるの？」すると夫はニコリと私を見てこう答えたのだ。「だって自分もそうやって育てられたもん。」・・・私は目からウロコが落ちるようだった。家に、今もう四歳になる夫の甥っ子がいる。私が嫁いだばかりの頃はそれこそ「Bad Two」の初期で、とにかくやんちゃでかかん坊でわがままな、小憎たらしいガキだった。人が楽しんで何かを食べていると、必ず「イデー(ちょうだい)」とやってきてはごっそりみんなもっていってしまう。それが気に入らないとそのへんにポイ、と捨ててしまう。家族は笑って見ているだけである。「だめよ、そんなことしちゃあ」などと言う者はいない。人の物を持ち出して壊してしまっても、「アドー、しょうがないわねー、これからはちゃんと隠しておかなきゃいけないわね。」でおわりである。それを見て私は、「そんなに甘やかしていると、ろくでもないヤツになるぞう」と、内心批判ブーブーだった。ところが、である。その甥っ子は、今のニッがねだれば何でもすんなりあげてしまうのだ。まだよくわかっていないニッが彼の手に噛み付いたり、頭をボカスカ叩いたりしても、ニガ笑いしながらグッとこらえているのである。

どうしてバリ人は皆、すべての子供たちに対してこんなに暖かく接してやることができるのか。それは彼らが暖かく愛されて育ってきたからである。なぜバリ人は他人にも、見知らぬ外国人にも優しくできるのか。それは彼らが、誰からも優しく愛されて育ってきたからである。人により

異論はあろうが、私はそう思っている。

私は、ものごころついた時からきびしく、時には冷たく突き放されて育ってきたように思う。小さい頃はよく殴られもした。だからといって愛されていなかったわけではない。しかし、人に対する、そして自分の子供に対する「愛のかたち」は、私が育ってきた環境のなかではぐくまれ、それが大人になっても消えず、心のかたすみに残っているとすれば、今の私のそれは、多くのバリ人とくらべようもないほど貧弱なものにちがいない。そんな私は、今、このバリで改めて、優しく暖かい「愛のかたち」を学んでいる。それをいとしいわが子に受け継いでもらうために。母親にとって、育児は自分の成長でもあると言うが、まさしくその通りである。私の、ちょっと寂しかった育ち方を、ニッには二度と繰り返すまい。ニッに日本名をつけなかったのも、なんとなく日本語を教えそびれているのも、実はそんな気持ちがあったからだ。この子は、この天国のような島で、愛をたくさん受け継ぎ、他のバリ人と同じように優しく、暖かい人間になってほしい。そしてその愛を、未来永劫に子孫に伝えていってほしい。日本名より、日本語より、私にとってはそれが一番の、切実な願いなのである。

それに、もうちょっとぜいたくを言わせてもらえるなら、ニッがおじいちゃん（トペンの踊り手）や、お父ちゃん（パロンの踊り手兼ガムラン演奏者）の血をしっかり受け継いで、りっぱなバリ芸能の担い手になりますように。そしてそれを子孫達に伝承していってくれたら、母として、もう思い残す事は何もない。そのためにも、ニッが大人になり、やがて結婚し、父親になっても、母の愛は絶やすことなく注いでやらねばなるまい。そういう意味では、未熟な母の子育て日記はこれからもずっと、きっと死ぬまで続くのかもしれない。



おわり



■子どもたちの今

数え歌じゃないけれど“十でとうとうさようなら”と連載10回目のこの回で、びんびん坊のインドネシア語講座もサヨナラ、というわけだ。

長かったような短かったような1年半だったけれど、インドネシアのこの1年半というのは、文字通り歴史に残る月日だった。“だった”じゃない。今も進行していて、いつ重大ニュースが報じられても不思議ではないような毎日なのだ。

とくに経済状況の厳しさは、時代を一気に30年も逆戻りさせてしまったとも言われ、膨大な数の貧困者の群れ／hidupnya di bawah garis kemiskinanを生み出している。今年7月の統計ではすでに8千万人、景気の回復が遅れれば年末までに1億人に膨らむと予測されている。人口2億のこの国で、1億人が貧困層とは！多くは、PHK/Pemutusan Hubungan Kerja、すなわち解雇によるものだ。「インドネシアで働きたい」などとノーマルなこと考えてるあんたっ！いまはちょっと我慢しとけや、状況が悪すぎる。

このPHKの結果は子どもたちの世界にも及んでいる。いまTVではさかんに“Aku Anak Sekolah”のキャンペーンが行なわれている。父親が失業して、学校の経費を払えなくなり、やむなく退学せざるを得ない子どもたち。都市部では、いわゆるストリート・チルドレン／anak-anak jalananも激増している。こういう世相にむけて、学校をやめるな、学校へ戻ろうと呼び掛けるキャンペーンだ。これも7月の調査だが、小学校では29.8%、中学14.8%、高校では13.4%の子どもたちが、学業を続けることができないという。ちなみに、今回の経済危機以前の数字は小学校2.99%、中学3.47%、高校で4.6%というから、倍増どころではない。

■みんな、ありがとう

去年の通貨危機に端を発した経済的混乱、インフレと物価高、加えて失業者の激増。今年5月の劇的な政権交代後も少しも変わらない経済状況。右を向いても左を向いても明るい状況にはなかったけれど、びんびん坊のこの講座に登場してくれた人々、とくにABG/Anak Baru Gede = 新人類の言動には笑わせてもらった。

BMVを乗り回していて車の盗難に遭ったLodtunduhに住む高校生、懲りもせずにまた愛車BMVに乗ってるんだらうな。なんせ、事件後間もなく犯人も車も見つかっちゃったんだから。チャリンコに乗れっ！チャリンコに！（ああ、むなしい）。

メダンからジャカルタまで飛行機のタダ乗り/terbang gratisをやってくれた二人の高校生も楽しかった。前輪格納室に隠れての2時間、寒さでガタガタ震えながらいったい何を考えていたのだろう。

性的不能を理由に離婚をせまられたUBUDの小学校の校長先生、けっきょく奥さんと別れてしまったのだろうか、それともjamuでもばかすか飲んで名誉回復？

恋人との関係に悩んでたDenpasarに住むBさん、anal sexはOKだけれど前はダメ！って言ってたけど、いまもダメ？

ほかにも数々の笑い話やエピソードを提供してくれた巷の人々と、借し気もなくあからさまなゴシップを報じてくれたBali PostにTerima kasih！みんな、この大変な状況にもめげず明るく、頑張っていてほしい。

極楽通信のスタッフ、そして役に立ったんだかどうか分からないけれど読んでくれた読者にもTerima kasih

banyak!

最後は、歌でも歌って、お別れといきましょう。

♪ Sayo ~ nara Sayonara
Sampai Berjumpa Pulang,
Sayo ~ nara Sayonara
Sampai Berjumpa Pulang ♪





VOL. 4 ITO-CHANG

バリ島つねづね

■ポトン・バビは深夜行なわれる豚の屠殺

スバリ村のグスティ・ヌラーに「ポトン・バビがあるから来い」と誘われた。

ポトン・バビは、インドネシア語でポトンが“切る”バビは“豚”のこと、合わせて“豚の屠殺”になる。バリ人同志ではバリ語で「ナンパー・チェレン」と言っている。

ポトン・バビがあるということは、バリでは儀礼があるということでもある。ポトンしたバビはラワール料理をメインにさまざまなバリ料理に変身して、儀礼で使われる。

そういった意味では「儀礼に参加して、バリ料理を食べに来い」と誘われているわけでもある。

ラワールは生ものである。朝作られたラワールは昼すぎにはもう食べ終えないと悪くなってしまふ。そんなわけで、ポトン・バビの時間もおのずと深夜になる。

各家庭によりまちまちだが、通常ガレンガン前日の深夜、いわゆるガレンガンの早朝には、バリ島中の家々でポトン・バビが行なわれる。一体何匹のバビがこの日ポトンされるのやら、あちこちの家からバビの悲鳴が聞こえる。

「ポトン・バビは深夜だから、前の日から泊り込みで来い」と言われ、ポトン・バビも興味があるが、早朝のスバリ村散策も魅力なので行くことにした。

夜八時、グスティ・ヌラー家に到着。テラスで家族がテレビのドラマ・ゴンを見てくつろいでいる。一緒になって見ていると突然グスティが嬉しそうに「ビールでも飲むか!」と、かたわらからピンタン・ビールの小瓶を数本取り出した。外国人のお客ということで気を使ってくれたに違いない。冷蔵庫がないので生温いビールだが、有り難くご馳走になる。

「ポトン・バビは深夜三時の予定で、友人の家でおこな

います」とグスティ・ヌラーの弟、マデに教えられた。ポトンするバビは、マデが飼っていたバビで自分の家で屠殺するのがどうやら偲びないらしく、友人の家ですることになったようだ。先ほどから犠牲(いけにえ)になるバビはどこにいるのだろうか、あたりを見回したが見つけれなかった。どうりでバビの姿も声もないわけだ。

夜十時。デンパサールの学校へ行って、たまにしか帰ってこない妹の部屋が私の寝室にあてがわれた。扉の前に足拭きマットが、ベッドには買ったばかりの真新しい枕が用意されていた。彼の気遣いがうかがわれて嬉しい。部屋は三畳ほどの広さで、明かり取りの小さな窓が壁の上のほうにある。平均的にバリ人の家の窓は小さくできています。悪い霊の侵入を防ぐ意味も

あるようだ。

電気を消すと部屋の中は真っ暗になってしまう。窓の外の電灯の明かりだけがほんやりと見える。

…寝付かれないまま深夜三時が過ぎた。窓の外はまだ暗い。三十分が経過した。予定は三時のはずだが、まだ誰も起きてくる気配はない。寝過ぎして置かれては困る、と緊張していたのに…。まあ、こんなもんだらう、バリだから。

…四時をまわり、外で話し声が聞こえた。家の人が起き出したようだ。

おっ、いよいよだ。私は、服を着て部屋を出た。グスティ・ヌラーの弟ニョマンが「さあ、出かけましょう」と声をかけ、懐中電灯で足元を照らして先導してくれる。

村道に出ると、たくさんのお供え物を抱えた女性たちが歩いている。なんでも、ウブドゥの市場へ供物を売りに行くのだそうだ。まだ足元も暗くて見えないというのに***きっと何年も前から変わらず続いている光景だろう***昔から女性たちはこんなふうで、生活を支えてきたのだらう。

友人の家に着くまでには、懐中電灯が必要でないほどの明るさになってきた。高い階段を上って、友人の家に入る。台所には昔ながらのかまどがあり、火がくべられて赤々と燃え上がっている。その暖かい灯りの中にイブ(お母さん)の姿が見えた。

しばらくして、テラスにコーヒーとバリのお菓子が運ばれてきた。「どうぞ、めしあがれ」と、イブにすすめられたコーヒーを飲んで待っていると、家の人が起きだしてきた。グスティ・ヌラーも現われ、主人らしい人物と話をしている。

家の裏から人の話し声とバビの鳴き声が聞こえてきた。いよいよ始まるのだろうか。

なんとといっても、ポトン・バビのフルコースの見学は生まれて初めての経験なので、ちょっと興奮状態。声の聞こえる方に行ってみると、一段高い土間に両手、両足、口を竹紐で縛られ横たわっている白い大きなバビが、今まさに喉をナタで裂かれる場面であった。両手、両足には、担いで運ばれる時に使ったのだろう太い竹が通されている。バビは死ぬ間際、凄い力で暴れるらしく、大の男が四人がかりで押さえつけている。死を悟っているのだろう、バビはあらんかぎりの大声で叫んでいる。私は一メートルほど手前に、覗き込むようにして座りこんだ。

体験記

あっ、切られた。いともあっさり切られてしまった。バビの哀しい声があがった。喉元から血が滲んできた。容赦なく素早く、切り口に先の尖った半割りの竹が刺された。竹の先から水道の水が流れるように、大量の鮮血がこぼれ出した。バビは「ブー」と高い声を何度もあげ、最後の力を振り絞って抵抗する。数分して血が止まり、泣き声が止まった。

死に絶えたバビは台所付近に運ばれた。作業をしている村人はあくまでも手際よく、竹を外し、縛っていた手足の竹紐を取ったあと、乾いた椰子の葉を束ねて火をつけ炙りだした。体毛を焼く作業のようだ。鼻先、足の先までまんべんなく焼き、黒くなった表皮を竹で削ぎ落としていく。

その後、水場に運び、丁寧に洗い流す。つるつるになってしまったバビは、バビには見えなく、バビっぽい物という感じだ。

仰向けにされたバビの白いお腹に、線を描くように縦にナタが入った。心臓、腸などの臓器が、切り開かれたお腹からこぼれ出す。ここまで見続けると、もう気持ち悪さもなくなり臓器を触ってみる勇氣も出て、胃袋を指で突いて見た。まだ暖かい。

こぼれだした内臓は大きなバケツに入れられた。

内臓がなくなったバビは、再び土間の近くに運ばれバナナの葉がいっばいに敷かれた上に置かれた。

内臓のなくなったお腹の中は肋骨だけが見える。・・・ポトンと首が落とされた。脂肪の部分が切り取られていく。胴体から股が切り取られる。バビはもうバビではなく、ただの肉と化した。数人の男性がそれぞれオノを手し、肉の塊を作っていく。それと平行してお供え物が用意され、小さな儀式がおこなわれた。

ポトン・バビは男性の仕事。そして、村人のゴトロンヨ（相互扶助）によって行なわれる。村人は、おのおのオノを持って共同作業に参加する。スバリ村ではオノのほかに、椰子の実を二つ持って来ることが決められているようだ。

私はこれも経験だと、オノを借り股肉をさばく作業を手伝うことにした。オノの切れ味が悪いのか、意外と切りづらい。

「気をつけてくださいよ」と、マデに注意された途端、私のオノは私の左手人差し指の第二関節の肉を少し削げ落としてしまった。手伝うどころか、さっそくこんなことになってしまった。気づかれては、みんなに心配をかけてしまう。一刻も早くこの場を離れなければ。

「コーヒーでもどうぞ」と、女性が運んできた。それを機にその場を立ち「手を洗ってくる」と、伝えて水場に向かった。水場では、グステイー・ヌラー達が先ほどの内臓を洗っているところだった。腸詰め用の腸が透明ホースのようになっている。手を洗おうにも、みんながいては都合が悪い。私は血の滲んでいる人指し指を身体の後方に隠して、作業を見守る振りをした。早く手を洗って止血しなくては、と家を出て川で洗うことにした。

煙草を吸う仕草で、一本の煙草をほぐし傷口につける。煙草は止血になる。東の空から太陽が昇りだした。すがすがしい朝の風が身体に心地よい。早朝の散策のはずがポトン・バビで怪我をして、川を探しているとは情けない。

帰ると、さらに村人が増えていた。それぞれに持ち寄った椰子の実が割られて皮が裂かれる。裂かれた椰子の実は、摺りおろされる。来た人は、自分の持ち場が決まっているかのように、すばやく作業に取りかかっていた。

このあと、料理が作られるのであろうが、ポトン・バビが終わったことなので、私は帰ることにした。

他に、豚をまるごと潰す料理にバビ・グリーンがある。これは、豚の丸焼きである。バビ・グリーンは一般的には、人間のための儀式（結婚式や赤ちゃんの通過儀礼）につくられる。家庭で焼く時は、子豚を使うことが多い。ポトン・バビの手順は前述と同じだが、内臓を取り出した後、腹の中に香草や香辛料をたっぷり詰め、丈夫な糸で縫い合わせる。おしりの穴から口まで貫通した棒をぐるぐるまわしながら、火で炙るのである。

ラワールもバビ・グリーンも、バリの一般家庭にとっては、日頃手軽に食べられる料理ではない。ゴトロンヨに参加したお札に持ちかえるバビ料理は、家族みんなのご馳走でもある。

バリ日記

カブド大好き!

渡辺一郎 & 小堀桂子

5度目のバリ／その2：1997年9月12日～9月17日

■ 1997年9月14日

8:30 集合。バトゥブラン村でバロンダンス。特にバ
ンジャール・デンジャランという会場のご指名で行
く。バロンダンスの舞踊団は数多くあれど、ここは
超オススメの一品。95年、たまたま見た時すげえ！と
思い、他と比べてみて改めてすげえ！と思い、今回は
その感動を押しつけようと思い、みんなを連れてきた
のだ。(極通によればなんとユミさんの旦那さんがバロ
ンを演じているという。いいのもあたりまえか)

早めに着いたので、会場はまばら。一番前が空いて
いたので、またまたかぶりつき席に陣取る。渡辺は三
脚をセットしている。写真の敵、ピンぼけのほとんど
は手ブレが原因。これを解決するためには、重くて頑
丈な三脚にカメラを据えつけなければならない。ただ
でさえ疲れやすい海外旅行に重たい三脚なんてほとん
どアホであるが、お写真をきれいに撮りたいという欲
望がひとさまよりも強いだからしゃあ～ないか。こ
の舞踊団を撮るのも3回目ともなれば、舞台の次の展
開がだいたいわかってきたので、ずいぶん楽になった
ものだ。しかし逆に慣れた分だけイメージが固定化さ
れ、頭の中のお手本をなぞるだけになりがちだ。こう
なると写真を撮ることが単なる作業になってしまう。
ドキドキワクワクが枯渇してしまうのよねえ。そんな
ときはえいヤッ！舞台から客席に300mm レンズをむ
けてみると、桂子、千穂さん、南田センセが並ぶ。さ
すが超遠望レンズだ。画面いっぱい顔をどアップし
てもだあれも気がついていない。盗撮してみよか。ド
キドキ。このドキドキ感が写真を撮る行為のエネルギー
なのである。(多少パパラッチぎみではありますが)ま
たレンズを舞台に向け直す。この蚤取り場面でのバロ
ンとさるの掛け合いはいつ見ても最高さ。うまいこと
写ってますように。

バロンダンスは、何回見てもおもしろい。宗教的に
働くことをしないニュピの日以外はほとんど毎日演じ
ているというから、すごい集中力だと思う。毎日やっ
ていたら飽きて手を抜くで、ふつう。1時間半程の公
演時間の印象だったが、終わってみればちょうど1時
間だった。見ごたえがあるからだろう。会場も最終的
には立ち見が出る程だった。

ムンブルズで昼食。足立さんのオーダーしたアボガ
ドチョコレートジュースがみんなの話題を呼ぶ。味見
の為にみんなの間を一周したが、戻ってきてもほとん
ど量は減っていなかった、という味だった。私と彩ちゃ
んが頼んだパインココナツジュースはとてもおいし
かったことをムンブルズの名譽の為に付け加えておく。

レリーフのある溪谷に行く。ここはニュマンさんも
知らないようで、私たちの記憶だけが頼り。人の家の
庭のようなところを下りて行くのだったが、改装され
ていて道がわからない。やみ雲に下りて行くと間違っ
ていた。足下の悪い川の縁を何とか歩いているうちに
千穂さんはスカートを破いてしまったとのこと。(チャ
イナドレスみたいになったスカートで大胆に闊歩して
くれて実にチャーミングでした)。

やっとこさ目的地に到着。この時のビデオには、「道
を間違ったのお？あの人達の人生と同じねえ」という
和田のせりふがしっかりと記録されていた。

レリーフは人の手によって苔が落としてあり、何だ
か感動も半減。みんなも予期せぬトレッキングにぐっ
たりして、頭が回っていない感じ。一休みして、記念
写真だけで撮って帰る。帰りは他人の家の庭のような
ところから、あっさりと帰ることができた。一応『通
り抜け禁止』みたいなことは書いてあったようだけど。

この後、みんなでお茶するつもりだったが、「別にお
茶は飲みたくない」という疑義が出て、予定を変えて
フリータイムとする。ホテルに向かうバスの途中で私

たちと南田さん夫妻だけ降ろしてもらい、クブクーでお茶をする。

わたしにとってこのクブクーは今のところ世界で一番の喫茶店だ。居心地が良過ぎて100年間くらいはお昼寝できそう。ここに1時間ほどいるだけで、ああ、日本に帰るのがやめよかなあ、会社のやつら、怒るだろうなあ、などと妄想してくるから始末におえない。あぶねえ。

高床式の座席の前にはたんぼが広がり、風がカラカラ風車を鳴らしていく。お連れした千穂さんもセンスも気に入ってくれたみたい。「実家にここと同じものを作って暮らす！」と宣言してたのは千穂さん。あれ？ そうなったらセンスはどうなるの？

桂子と千穂さんは絵はがきを書き、渡辺とセンセイはさやさや流れる風に吹かれてお昼寝。至福の午後。

一旦ホテルに戻り、荷物を置いてからショッピング。

ウブドも5回目となると、「安物のおみやげなんぞはどの店でも仕入先が同じ」なんてことがわかってくる。しかしそれは好奇心の弱体化につながり、「いいものなんて売ってるわけない！」なんて決めつけてに結果する。この時のショッピングはその典型。決めつけてバチがあったのか収穫はなにもなし。虚心坦懐に渋い布かばんをお安くゲットしたドーター稲田彩ちゃんをうらやむのでした。

シャワーを浴びてから、チャンプアン橋近くのムルニズワルンでスモークダックの夕食。ニョマンさん、ドライバーさんもご一緒してもらう。以前行った時は、1羽のダックを2人で食べたので、今回は10人だから4羽くらいでいいかな、と用意していたのだが、その量のあまりの多さにみんなちょっと「んげげ…」という雰囲気。でもウブド最後のディナーなので、それなりにゆっくり楽しむ。食後はレストラン横のショップでちょっとショッピング。桂子は10,000Rpでフラワー

オイルを買う。ドーター稲田はここでもファーザー稲田に何かをおねだりしていた模様。

バス、ホテル着。まる2日間、ずーっと付き合ってくれたニョマンさんと再会を誓って別れる。本当にお世話になりました。へろへろに疲れて空港に着いた時、笑顔で迎えてくれたニョマンさんを見つけ、どんなに嬉しかったか。あれがしたい、ここに行きたいという私達のわがままをほとんど実現させてくれたニョマンさんの手配とたくさん心遣いに本当に感謝しています。本当にありがとう。みんなを代表してお礼を渡す。

あいかわらず帰ってから飲み会。今日の昼間ムンブルズで初めて飲んだプレミアム（ライスワイン）をみんなやたら気に入ったようで、ホテルのスタッフ（ドラエもんくん）に頼んで買ってきてもらったりしている。夕べは少し空室があったホテルの部屋も、今日は満室のようで、あまり大声を出さないように気を使いながら、でも宴会はえんえんと続くのでありました…。

■ 1997年9月15日

チェックアウトをすませ、朝食。朝食は本当は7時からなのだが、7時出発の私たちの為に、ちょっと早めに始めてくれる。

ワカロウカのスタッフの出迎え。途中省略、プノアの港着。フロントで支払をすると『WATANABE & KOBORI』と書いた、いろいろなチケットが入った封筒が渡される。いろいろ楽しいことが起こりそうな予感。30分程待って、乗船。お客さんは全部で50人くらいか。スーツケースを持っているのは私たちだけなので、日帰りクルーズの人が多いのだろう。

この船はソフトドリンクが無料サービスなのだが、我が旅行軍団はそんな砂糖水に満足できるはずがない。



「ビールないの？ビール！」和田が叫べば、苦力&執事役の山本さんがスタッフにねじ込む。「有料だけどある」との回答。あるなら初めから出せよな。そんな喧騒のなかに突然現れたのは謎のチベット人であった。また突然、「そのビール、おごってあげる」とのことだ。この人の格好がまたあやしい。グラサンに釣りのベスト、長袖のシャツに長ズボンという、赤道直下のクルーズ船上ではほぼ完璧といえるほど場違いなものだ。かぶってる野球帽には「チベット解放」などと暑苦しく刺繍されていたので謎のチベット人と称したのであるが、中華人民共和国へは絶対まともに入国できない装束だろう。このチベット人の正体はいかに？何を隠そう名古屋の中村さんでした。ビール、どもね。

デッキの長いすに寝そべって、オイルを塗って肌を焼く。いろいろみんなにからかわれる。え〜い、うるさい。船酔いとビール酔いのにまかせて、我妻桂子の水着姿を執拗にからかっていた者は、イマカラデモオソクハナイ。フカクハンセイスルヨウニ。我々軍団は全員総崩れ。みんな吐き気やらツワリやらに耐え難きを耐え、忍び難きを忍ぶクルーズであった。さてさて軟弱日本人軍団ご一行様が救われしは、目的の島がぼちぼち見えてきたことであった。

沖合いから小さな船に乗り換え、レンボガン島着。チェックイン。素晴らしいコテージだ。外観はきのこのイメージ。外壁兼柱はコンクリート。入口にはおおきなガラスが採光を助ける。屋根はシュロ？でふいてあり、ベッドに寝転べば木の骨組みにシュロが編み込んであるのが放射状に見えてとってもエスニック。リビングの壁の色はなんとピンク。バス&トイレはコバルトグリーン。こう書けば気持ちわるいが、十分にシブいトーンに仕上げているので、決してギャル御用達安物ペンションをイメージしないように。ソファやベッドカバーはぶあついコットン。ま、モダンさとエスニックさの混合ダブルスとでもいいましょうか。非常に趣味がよろしい。こんなコテージにねえちゃん連れ込んだ日にゃあ、ほぼコトが成就できる、ちゅうもんですな。やったことないけどさ。

この島に宿泊する私達のお世話係はクトゥさん。南田夫妻コテージに行くと、2人を相手にこのクトゥさんがゲストに対するいろいろなサービスについて説明をしている真っ最中。しかし「ティー、オア、コーヒー？」と聞かれて「紅茶！」と言ってはばからない千穂さんに、OGなまりのクトゥさんの説明など通じるわけもない。かといって、そばに渡辺のいない時の桂子にも理解できる範囲を超えるので、メモ用紙に詳しく書いてもらい、一件落着。

さてみんなで海へおでかけ。ワザとカメラを海の中に漬けたり落としたりして遊ぶ。「カメラ、濡れるぞ！」とびっくりした足立さんの反応を楽しむ。ハハ、この

カメラは水中カメラなのだ。海の水は思ったよりも冷たいが、みんなでお写真したりしてほとんど混浴のノリ。

昼食。久しぶりの生野菜が嬉しい。パッションフルーツがあるのでみんなに薦めてみるが、フロッグエッグというその名前と、(正式名称ではありません。私が勝手にそう呼んだだけです)蛙の卵のようなその見かけに、みんな気味悪がってあまり食べない。うー、おいしいのに、もったいなーい。

昼食後は海水プールで遊ぶ。プールでシンクロのまねをする。せっかくきれいな海を前にしてですが、このプール、けっこう憩えました。その憩いさかげんがみんなに通じたのでしょうか、のほほん空気が伝染、ビデオ班中村さんの「なんかやって下さい」とのリクエストに応えたのがシンクロナイズドスイミングでした。南田夫妻、渡辺、小堀、足立さんの五人で輪になってみる。次に水中で逆立ちの後、輪の中心に足首を揃えて花になる予定だったが、めいめい勝手な場所でブクブク沈んでいくに過ぎず、まったくシンクロしていない。でもけっこう燃えてしまい、2度挑戦するも轟沈。

げらげら笑っているとクトゥさんがシュノーケリングツアーのおさそい。中村さん、和田さん、千穂さん以外、みんな行く。留守番組は昼寝していたのかな(いや、エンドレスに飲んでいたらしい)。

船で10分程行ったところがシュノーケリングポイント。浅瀬で水がきれい。でもけっこう水が冷たい。シュノーケリングだけをするならば沖縄の慶良間諸島のほうをオススメします。水の透明度、魚の種類と量、機材管理の緻密さなどピカイチです。

名古屋発着の便の関係で日帰りクルーズで帰国しなければならぬ中村さん、足立さんを見送る。足立さんは名残惜しいのをごまかそうと、「こんな島、泊まりでくるやつのがしれない。日帰りでたくさん」と捨てゼリフ。かわいいやつ。中村さん&足立さんたちの乗ったボートが、沖合いに停泊するクルーザーへとってしまう。そんな大した別れでもないが、島の人数が急に少なくなったこともあって、何だか寂しくなる。

シャワーを浴びていると、泡立ちなどがなんか変。口元についた水滴をなめてみると、なんと塩水だ。セブ島などではこの塩水シャワーはあたり前のようだが、まさか自分の泊まるホテルが塩水シャワーとは考えてもいなかった。

サンセットクルーズ。直訳すれば日暮航海でっせ。洛陽の茜色に染まる貴女と二人きり、この豪華客船の先端部分、両腕を羽ばたかせる貴女を後ろからそっと抱き締めるといふ想像をしてしまうではありませんか。でも…乗ったのは風の力だけで動く、2人乗り用の帆かけ船。漁師風のおじさんが巧みに風を読み、船を進めて行く。夕陽に向かって走れ！じゃないけれど、夕

陽に向かって船が進んでいくというのは何とも素敵な気分。途中から波が荒く、けっこう船が揺れたがちつとも怖くはなかった。自然のエネルギーを駆使し、船を縦横無尽に操る。人間はこうも偉大な力を持ち得るのか、思い知らされました。

夕食。満天の星の下、ビーチに8人分のテーブルセッティングがされている。きらめくろうそくと星明かりのもとで夕食。最初のトマトスープとサラダは絶品。しかしその後の鳥のメインは、油が口に合わないのか胸につかえて食べられなかった。デザートのアップパイもイマイチ。ま、こんな小さな島に来て、地元の料理ならともかく、おいしい洋食を求める方が間違っている。夕食時はワインとビールは飲み放題なので、みんなたらふく飲む。クトゥさんと山本さん、和田さんが意気投合し、ドブクロをどっかから調達してきて大騒ぎ。クトゥさんが我々とドンチャカやってくれるのは、管理職がバりに帰宅したから、ということだ。従業員とはいずとも同じmondですなあ。

隣のテーブルのOG夫婦も巻き添えに酒宴は続く。「何週間この島にいるの?」OG ジェシカさんが聞く。「明日帰るよ」「信じられない」「仲間の二人は数時間で帰っていったよ」「クレージー!」。そうだ。我々はこの島で過ごす数時間のためにクレージーになって働いている日本人だ。ほっとしてくれ。

■ 1997年9月16日

和田さん、稲田親子、南田センセイは、朝早くからフィッシングに行っていたらしい。その時に釣ったという、まぐろのような魚が刺身になって朝食に出てくる。引きちぎったような魚の肉片を、ワサビ抜き/フォーク使用/トーストと一緒に食べるという悪条件であったが、なかなかいい味でした。

和田さん、南田夫妻、私たちの5人でレンボガン島のビレッジツアーに行く。ホテルの裏側に出るとボロの極致のような軽トラが待っている。荷台のベンチが座席だ。さて出発! 開墾地のような荒涼とした林の中を進む。このへんは新しい住宅地で、なんとクトゥさんのマイホームもあるという。日本の「**ヶ丘」をおもいきり荒っぽく造成した感じ。ガタビシ轆にタイヤをとられながら進む。

広場のある作業場で停止。校庭くらいの広さにぼつぼつとワカメみたいのをぶちまけてある。「日本から種を運んできた海藻だ。コスメティックに加工する。」クトゥさんが説明。こんな南の島でも当然、現金収入は必要なのだ。現実ですね。

島の中を少し巡ってからホテルへ戻ってみると、このホテルが島の中で如何に異常な空間なのかがわかる。南の島・椰子の木・きれいな白砂のきれいなリゾート! なんてものが、実は全くのニセモノなのだ。今回のホテルだって、もともとは蚊がうようよいるようなマングローブ生い茂る湿地帯を埋め立て、島の外から莫大白い砂を持ち込んで整地し、椰子の木を植え、人工ビーチを作り上げたものだ。しかしそれでいい。日本から来た都市生活者なんかには、わが砂上の楼閣ホテルの空虚さをコメントする権利はないのだ。普段は都市生活を享受して、休みには外国に出かけて完璧な自然さを要求するなんて傲慢というもの。それにこのホテル、人工の自然の演出があまりにもウマく、みんな気に入ってしまったじゃないの。それでいいのだ。われわれには自然を語る資格はない。

プールサイドでうだうだしていると、ディクルーズの人達がやって来た。急ににぎやかになる。ディクルーズの人達は今からお楽しみだというのに、同じ時間に出発する私達は「あ〜、もうちょっとで帰るのね」と空しくなる。

昼食。昨日と同じメニューなのでちょっとがっかり。これは2泊以上はできないな、と思う。みんなもそろそろ昼食・夕食時に飲み放題のビール・ワインに飽きてきたらしく、有料の別のお酒を(それでもお酒を!)頼んでいる。

レイトチェックアウトにしてもらった1室のコテージで、みんなで順番にシャワーを浴びる。一番初めにシャワーを浴びに行った私たちに気をきかせてくれて(?)、みんながなかなかコテージに来ない。きわどいタイミング? で和田みよが登場し、ああ、もう帰るんだなあ、と実感しながらパンツをはきはじめる。

また、あの日常のなかに帰っていくのだ。

【おわり】





極通制作スタッフ紹介

「YUMI SATO」



- A1: UBUD 在住9年。インドネシア国籍歴3年。よくサボる(笑)が、いちおう Pengosekanにある居酒屋「影武者」を仕切る。昔、日本ではロッカーだったが、現在はバリ舞踊にぞっこん。ガイドブックや雑誌にちよくちよくバリの文化について寄稿している。夫はバロンの踊り手。
- A2: ペンネーム「エナちゃん」「ムーン・ストーンの花嫁」として数々の連載に参加するかたわら、コラムや特派員報告、その他のニュースなどの執筆も手がける。
- A3: 5年もの永い月日、このバリ本部のぐうたらポケポケに、よく東京支部の堀さん・えりさんが辛抱強くつきあってくれました。ひたすら感謝感謝です。そして何と言っても、毎回東京から送られて来る版下の「うぶんな人々」を見るのが楽しみでした。…が、ウカツなことを言ったりしたりすると、そのまま「ネタ」になるのがちょっと怖かったです。(笑)
- A4: 皆さん、いつ届くとも知れない本誌を、文句一つ言わずに(あ、言ってた人もいたけど)待っていて下さったことを思うと、頭が下がります。ありがとうございます。これからも何らかの形で、UBUD からのおたよりを「愛をこめて」みなさんへ送り続けたいと思っています。どうぞよろしく!

「伊藤博史」



- A1: UBUD 在住9年。UBUD を愛する“UBUD 熱愛症候群”の第一人者を自称。御歳ン歳とは思えぬバイタリティで(笑)、本誌をはじめバリにおける数多くのイベント、また少々のビジネスに、「影の仕掛人」として大活躍する。各地のオダランへ、トベンの踊り手として神出鬼没するのが生き甲斐となっている。
- A2: そもそも極通発刊の言いだしっぺである。「コラム、特派員報告、Apa itu?」などの原稿を執筆するかたわら、「影の仕掛人」の名にふさわしく、原稿依頼や送付作業などの裏方も担当。「いかりや長髪」「UBUD の長老 I 氏」とは、彼のこと。
- A3: 発刊からあっと言う間に5年の歳月が過ぎました。ここまで続けて来られたのも、ひとえに東京支部のお二人が全面的に協力してくれたおかげです。それに、UBUD 在住の TAKA ちゃん、恵さん、そして「Pin Pin Bo」の成瀬さんはじめ、極通にかかわってくれた日本にいる数多くの方々、何とお礼の言葉を言って良いのかわかりません。どうか、皆に、バリの神様のご加護がありますように…。
- A4: このご時世、今やわざわざ UBUD から小誌を送らなくても、インターネットや何やかやであらゆる情報が、すばやく日本の皆さんの手元に届くようになりました。今までのスタイルの極通は、これでしばらく御用納めです。しかし!必ず別冊編として続けますので、どうかお楽しみに!長い間愛読して下さい、ほんとうにありがとうございます。



- Q1：経歴&人物紹介
- Q2：極通での役割
- Q3：感想ひとこと
- Q4：読者の方へ

「堀 祐一（ほりり、ぬほりん）」



- A1：UBUD 熱愛症候群感染歴9年。東京では映像制作集団であるポトマック株式会社を主宰しながら「極楽通信 UBUD」の版下制作を取り仕切る「影の出版会・東京支部」を運営。基本的にさぼることしか考えていないため、早期引退して優雅なUBUD住まいという夢をなかなか達成できないでいる。
- A2：表紙裏の「Ubud Indah」と4コマ「うぶんな人々」の連載、たまに写真やコラムなどを担当。また最近インターネットのホームページ（www.potomak.com）で「極楽通信 UBUD・HP版」として転載をしているが、遅々としてアップデートが進まないことは有名（爆）。
- A3：いやあ、そろそろ写真やマンガネタなどが尽きてきていたこともあり、ホッとしているのが本音であります。しかしよく5年間続いたものです（笑）。
- A4：もっとがんばっておもしろいネタを展開しようと思いつつ、いつも手抜きしか考えていなかった「うぶんな人々」ですが、たくさんの方から楽しみにしているという励ましをいただき、本当にありがとうございます。今後は「週間女性うぶっ」の創刊を目指してがんばりたいと思っています（自滅）。

「菅原恵利子（えりりん）」



- A1：1987年に初めてバリの土を踏み、1990年からUBUDに通い始め、UBUD 熱愛症候群に感染する。伊藤さんの「本を作ろう！」という軽い思い付きに、軽く安請け合ってしまったために、地獄を見るハメに…。（笑）東京では、映像演出が本業。だから、DTPは本業じゃないんだよお～と言いながら、版下制作をする。
- A2：極通での役割は、尻叩き。（笑）だってみんなサボることしか考えてないんだよお。その他、実務レベルの版下制作全般と、購読申し込みの受付・管理などなど。たまに原稿が足らなくて、コラムをでっちあげることもございました。
- A3：とても「やれやれ」なキモチです。1年に6冊、つまり隔月刊のはずなのに、ちわちわとズレこんで、読者の皆様からのお問い合わせには「アウアウ」でした。あっという間に5年が経ち、30冊もの「極楽通信」が産まれました。感無量です。内容的には、ガイドブックくらいしか存在しなかった時代に、とても濃ゆいバリネタ満載の「極通」だったと思います。この濃ゆさは、現地UBUDで取材して執筆してるから出来たこと。伊藤さん&由美さん、お疲れ様でした。
- A4：いやあ、ほんとに皆様、のんびりバリペースにお付き合いくださってありがとうございました。日本全国から届く購読申し込みに、とても励まされました。たくさんの方と「極通」を通して知りあいになりました。感謝です。これからも、なんらかの形でバリの空気を届けたいと思っています。

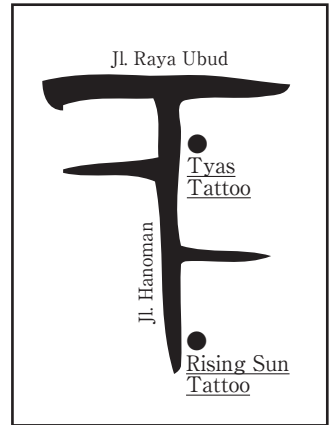
Toko ◇ BEST 店

TATTOO ![!] Tyas Tattoo Risig Sun Tattoo

ずーっと前の極通で、パダン・テガルの Jl. ハノマンに「TATTOO- 入れ墨」shop ができたことをお知らせしたことがありますよね。今回はそれをくわしく紹介しちゃいます。「TYAS TATTOO」は、UBUD のメイン・ストリートからジャラン・ハノマンに入って 20m くらいのところにあります。

入れ墨は、ちゃんとそのつど新しい針（…と言っても、機械ですけど）を使って、衛生面にも気をつけている、とのこと。2cm 角くらいの、黒の単色の小さなモチーフで約 20us \$、カラーはアメリカからの取り寄せです。ソファのそばに、モチーフの見本アルバムが山のように積んであって、もち自分でオリジナルの絵柄を持ち込んでも OK。本番 TATTOO の他に、「2 週間、もちます」というペインティング（偽 TATTOO ですね）もしてくれます。こちらは 2cm 角のモチーフで Rp.3 万前後。15 分くらいでできちゃうそうなので（ちなみに本番の方は 30 分）、ちょいとお遊びでやってみよう、という方にもおすすめ。それからもうひとつ、ずーっと南下したところにあるのが、「RISING SUN TATTOO」。こちらは、あのいかりや長髪氏のパロンの入れ墨を入れた彫り師、ウィル君がいます。ここもペインティング OK で、お値段も先の「TYAS」と似たり寄ったり。どちらもバリ独特のモチーフやバリ文字なんかの注文が多いそうです。ちなみに、パロンのカラー入り TATTOO は、100us \$ だそうです。ピアスの次は、やっぱり TATTOO ですね、ほりりさん、DAVA さん！…あなたも、いかがですか？

- TYAS TATTOO / Jl. Hanoman No.4 / TEL:975014
- RISIG SUN TATTOO / Jl.Hanoman No.58 / TEL:975525



Warung ◇ 味な店

Bumbung Cafe

アゲン・ライ・ミュージアム (ARMA) 正面玄関の西隣に、個性いっぱいのお店が新しくオープンしました。店名のブンブン・カフェのブンブンとは竹筒のことで、バリではジェゴグやティンクリックなどの伝統的な楽器に使われています。

一戸建の建物で、カラフルな色でふちどりされた可愛い出窓が目印。店内に入ると、そこはこだわりと思い入れの商品が並ぶ雑貨屋さん。日用雑貨からインテリア小物まで、幅広く商品を扱っています。

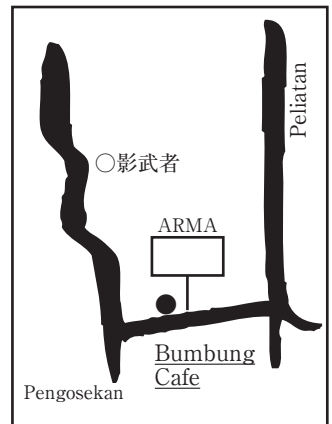
お店のテーマは「バリの自然と伝統」。その言葉通り、バリの自然素材を使った手作りの商品が目立ちます。ロンタルで編まれた籠に入った天然塩や、手作りの紙に花がアレンジされたパッケージが可愛いインセンスはお土産にぴったり。水草で編まれたランプシェード、小枝で作られたハンガーやフック、ココナッツの殻を使った小物入れなどは、お部屋に自然の息吹をもたらしてくれること受け合い。また、ミニチュアのガムランやワヤン・クリック、パロンなどはバリフリークの方にオススメです。

現地から直接取り寄せているヌガラ伝統的な織物、ヌガラ織りも置いていて、価格は良心的！きわめつけはジェゴグ。持ち運びしやすいように、組み立て式になっているのが嬉しいところ。

奥のスペースにはガムランなどの伝統楽器が置いてあり、自由に触ることもできます。お店の裏は小さな工房になっていて、そこでは主に、バナナの茎の繊維を使った手漉きの紙が作られています。運が良ければあなたと一緒に作らせてもらえるかも。素朴で自然な風合いの紙はあなたの使い次第！

カフェの名の通り、窓ぎわにはカフェスペースもあり、散歩の途中や美術館見学の帰りなどの休憩にもオススメ。

カフェでくつろいだり、ショッピングしたり、あなたの目的で自由に楽しめるブンブン・カフェ。訪れてみる価値 100 パーセント！



住所：Jl. Pengosekan UBUD

Tokoz Sayang + 本店紹介



クタ・アルダナのバリ語会話

バリ語を勉強してみたいけど、いったいどんな方法で？とかねがね思っていたあなたにご紹介したい本です。日本初の、わかりやすいバリ語会話の習得本ですよ～ん。

アルダナ氏は東京在住のバリ人で、日本人向けのバリ語教室の先生もしているとか。理伊ちゃんはエナちゃんの知り合いでもあり、何年も前からちょくちょくバリに来ては踊りを習い、今やすてきなバリ舞踊を踊る、才色兼備の女性です。「ここんとこずーっと来てないな～」と思っていた矢先、「これで忙しくて、なかなか来れなかったわ」と、この本を携えてあらわれました。

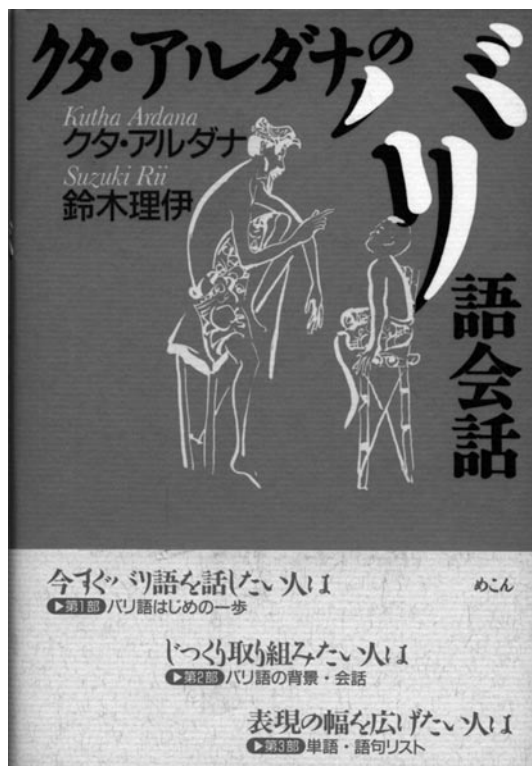
相手のカーストによって使い分けねばならない難しいバリ語ですが、この本は私達日本人が実際に、バリで使う時にすぐ役立つように、やさしく解説してくれています。

それも、バリの人々に混じって、即、日常会話が楽しめちゃう、実用的なすぐれモノ。

コトバや文法の他に、バリ語ならではのユニークなエピソードも盛りだくさんで、読んでいて思わず笑ってしまう楽しい話もいっぱいです。文化や習わしについても、「ふ～ん、そうなんだー」なんて、知って得するマメ知識がそこかしこに載っていて、勉強するより、ついついそっちの方ばかり読んでしまう人もいたりして。

別売りでカセット・テープも発売されていますので、発音もバッチリ習得できますヨ。

「う～ん、バリ語って難しそうで、ちょっと…」と思っていた方も、これを読んで、ちょっとしたあいさつでも覚えてみれば？バリ滞在がグ～ンと楽しくなるかも！！



「クタ・アルダナのバリ語会話」

著者：N. K. Kutha Ardana & 鈴木理伊

出版社：めこん

定価：2000円＋税

その他のニュース

■バリのダンゴ三兄弟？

ある日、いかりや長髪氏がデンパサールのスーパー、ティアラ・デワタに行った時のこと。フード・マーケットの一角で食事を終え、レジのわきのジャジャン（お菓子）・コーナーをのぞくと、小さなパックに入った串ダンゴが目に入った。黒砂糖を混ぜたような、丸くてかわいいモチダンゴのようだ。それも二本入り。「おおっ！バリにもダンゴがあったかっ。」と感激し、早々購入したいかりや氏、実はつい先日、日本から来た友人に、「今、日本では“ダンゴ三兄弟”が流行っているんですよ～」と聞いたばかりだった。その友人はご丁寧にダンゴ三兄弟の歌を披露してくれ、それを聞きながら「ふーん、最近の日本はへんなもんが流行るなあ～」と思いつつ、甘いモノに目がいいかりや氏は無性にダンゴが食べたくっていたのだ。…で、思わぬところでダンゴに遭遇したので、いかりや氏は「よし、バリにもダンゴがあったことを、極楽通信のその他のニュースにのせよう」と喜んだ。さて、溢れ出るよだれをおさえつつ、夢にまで見たダンゴをひとつ、ガブリと口にはおぼったいかりや氏は、あまりのショックに椅子ごとひっくり返りそうになってしまった。なんと、ダンゴとばかり思っていたその黒い、丸いモノは、実は「ウズラのタマゴのしょうゆ煮」だったのである。運がいいことに、その椅子は床に固定してあるものだったので、いかりや氏はひっくり返らずにすんだが、レジ嬢に一部始終をしっかりと見られていた手前、口に入れたウズラのタマゴを吐き出すわけにもいかず、目を白黒させながらなんとか飲み込んだのであった。いかりや氏いわく、「すっかり口がダンゴを受け入れる体勢になっていたのに、なんだかだまされた気分だ。ウズラのタマゴのしょうゆ煮は、断じてジャジャン・コーナーに置いとくべきじゃない。それも串にまで刺しやがって。」…その「ウズラダンゴ」の残りはどうなったかというのと、持ち帰って猫にやってしまったとき。でも、なんで日本でそんなにダンゴ三兄弟が流行っているの？…と不思議に思っている極通スタッフである。

■ブサキのオダラン

去る二月の下旬から四月の中旬にかけて、ブサキ寺院で10年に一度という大きなオダラン（祭礼）が執り行われました。その祭礼は「Panca Bali Kerama（パンチャ・バリ・クラモ — 以前はPanca Wali Keramaと呼ばれていましたが、今回から変更されました）」と呼ばれ、大規模なムチャルー（お祓い）の儀式をとまうものでした。バリ島中の家々ではその祭礼に合わせて、門の前に高々とベンジョール（竹を使った飾り。普通はガルンガンの祝日に立てられます。）が飾られました。ムチャルーは三月十七日、ニュビの前日に行われましたが、当日は朝早くから、STSIの学長や教授連みずからトベン（仮面劇）を踊り、同生徒もパリス・グデヤルジャンの舞いを奉納しました。四月一日の満月の日を皮切りに、連日バリ島じゅうからお参りに集まった人々で、寺院の境内は身動きが自由にとれないほど。夜は毎晩ありとあらゆる芸能が奉納され、ムコミツ（寺院にとどまり、夜を明かすこと）をする人々で賑わっていました。今のご時世、これだけの大きかりな祭礼を行うには莫大なお金が必要です。前もってバリ・ヒンドゥー教徒の世帯ごとに、いくらかずつの寄付金を科していましたが、もちろん参拝当日の寄付もOKで、一度に何十万ルピアも寄付するバリ人もめずらしくないとか。寺院への寄付は「Dana Punia（ダナ・プニョーと発音します）」と呼ばれ、村々の小さな寺院でも、よく人々がしているのを見かけます。あなたも寺院のオダランを見学した時、心から寄付をしたいと思ったら、「これはダナ・プニョーです」と言ってお金を差し出してみてください。金額は関係ありません。あなたの好意を、喜んで受け取ってくれるはず。話がもとに戻りますが、読者の方の中で、「えっ、？ つい何年前にも10年に一度っていうオダランをブサキでしていたけど、どういうことなの？」と思った人もいるかもしれませんね。

それは、また違った名称の祭礼だったのです。五年に一度、十年に一度、という祭礼が、また何種類もあって、中でも有名なのが百年に一度の「Eka Dasa Rudra（エコ・ダソ・ルドロ）」です。

これもじつは西暦でびったり百年ごとではなく、高僧たちの意見によって時期が左右されるのだとか。前回のそれは1979年でしたので、私達の世代ではも



うぶな人々 その30 ぽりり

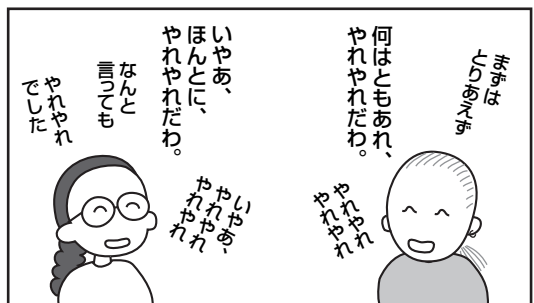
う見ることは不可能ですけどね。

さて、ここで Panca Bali Kerama の後日談があります。儀式のさいごの時、ある高僧がクラウハン（神がかり）し、「これから避けて通れない災いがこの島にもたらされる。地震か、火か、永く続く雨か、三つのうちひとつを選ばねばならない。」という神のお告げがあったのだそうです。その場にいた高僧たちは、「雨」を選びました。考えてみれば、それを選ぶしかありませんよね。だから、「今年の雨季は長いな」と思っているあなた、これもバリの神様が決めたこととあきらめましょう。

願わくば、作物への影響があまりないようにして下さいとさるといいのですが…ね。

Art Festival 幕明け!!

6月26日(土)から、いよいよ今年のアート・フェスティバルが初まりました。今年の総合テーマは「TANTRI」。タントリとは、登場するババや動物や昆虫の、いわば Bali のおとぎ話です。ワヤン・リックでもよく演じられる人気のテーマです。初日のパレードにはおなじみ Suar Agung の Jegog も登場（飾りつけはトラックの上で熱演!!）し、まごろックバンドの勢いに盛り上がっていました。ゴングピヤール・カムランコンテストは、今年の出場者はすべて25歳以上の若者に限定し、舞踊劇のテーマはもろん「タントリ」。われらがギヤナル県代表チームは、プリアタンの希代の星、「ガンタ・ブアサ・サリ」のメンバーを中心に構成されました。さてさて結果は…かに…?!



【バックナンバー購読申込み方法】

エメールアドレスで、その旨手紙をください。バックナンバーは年度毎（各6冊）でお申し込みください。宛先は「影の出版会：伊藤」、住所は巻末のBALI本部です。おrikえし申込み用紙と送金方法をお知らせします。振替先口座：00190-6-573859「影の出版会」です。

●おしらせ● そう日本は夏まじりぞすね!! さて 7~8月の日本でのイベントをいくつかご紹介しよう。

■ Suar Agung (スアル・アグン) 今年もJegogの夏だー!!

- 8月20日(金) 富山県福野町・円形劇場・ヘリオスにて
- 22日(日) ワーク・ショップ & コンサート
- 23日(月) 新潟市内 (未定)
- 24日(火) 東京・かおつしか シンフォニー ヒルズ
- 25日(水) 茨城・つくばパフォーレ
- 26日、27日、28日(木・金・土) 大阪市河内長野市・茶花の里にて
ワーク・ショップ
- 29日(日) 大阪市・河内長野ラグビーホール

お問合せ
カンパセーション
03-3233-1933

■ 知らぬがらバリ芸能「ヤカパン」の観望のお楽しみ!!

7月20・21・22日(火・水・木)

青山円形劇場・お問合せ
03-3797-5678

■ アムのパリスがやってくる!!

8月7日~29日 / 愛知県犬山市

野外民族博物館・リトル・ワールドにて

「バリ島まつり」ごっかく開催!!

各種イベントで盛りだくさんです。おススメ!

セマラ・ラティのアム、アユ 他 2名が
踊り手として参加します!!



Pengumuman

アムゴンぱん

去年の12月で休刊と誌上で言ってましたが、今、極通は休んでいるのでしょうか? 私は極通のファンであり、BALIは もちろん UBUDを愛してやまない人間です。私は BALIで知り合った大阪のおじさんから極通のことを教えていただきました。その人は BALIを愛し、UBUDを一番愛してました。私はこのおじさんから UBUDの素晴らしさを教えられました。更に自分が療養中だからと言って、1年半前エアチケットをただでくれました。その優しいおじさんが、BALIへの思いを残して1月31日に亡くなりました。病気を頑張って治そうとしてましたが、神様は天国へ連れて行ってしまいました。坂田さん、心からお悔やみを申し上げます、そして有難うございました。

是非今度は、写真持参して BALIの風景を見せてあげたいです。

やすよ

バックナンバーのお知らせ
あかげまで バックナンバーも好評!!
'94~'96は完売しました!!
'97版は まだ在庫あり!!
'98も、お返運がほしかつたら
えんえんお申し付け下さい!!
お返ししていきます!!

アムゴンぱん、アムゴンぱん、アムゴンぱん、アムゴンぱん



Terima Kasih



発行人：伊藤博史

編集：伊藤博史 / 佐藤由美 / 中田 恵

桑野貴子 / 堀祐一 / 菅原恵利子

エディトリアルデザイン：菅原恵利子

写真：加藤芳紀 / 伊藤博史

カバーコラージュ：えりりん

極楽通信「UBUD」Vol. 30

1999年6月30日発行

発行・販売：影の出版会

Hiroshi Ito: d/a Pak Wayan Karta Wigraha

Jl. Suweta No.16, Ubud. Bali,
80571, Indonesia tel.(0361)973134

©1999 影の出版会 禁無断掲載





影の出版会事務局

- BALI 本部 Hiroshi Ito: d/a Pak Wayan Karta Wigraha Jl.Suweta No.16,
Ubud. Bali, 80571, Indonesia tel.(0361)973134
- 日本連絡先 〒 143-0023 東京都大田区山王 3-29-1 ブルク山王 302
ポトマック株式会社内, tel.03(5743)7100 fax.03(5743)7101